公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成28年10月1日発行（毎月1回1日発行）通巻562号

ハンドボール

特集

第6回女子ユース世界選手権

第15回男子ジュニアアジア選手権

第67回全日本高等学校選手権大会

第29回全国小学生大会

［表紙写真］第67回全日本高等学校選手権大会、男子優勝・岩国工業の徳田廉之介選手（左）、女子優勝：水海道第二の齊藤詩織選手（右）

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.or.jp/

英国のエアライン格付機関SKYTRAX社が主宰するエアライン・スターランキングで
4年連続、世界最高評価「5STAR」を獲得。ANAは日本で唯一の5スターエアラインです。

育成部発足について

公益財団法人 日本ハンドボール協会 指導普及本部 育成部長　**尾石 智洋**

今年度より、組織編成され育成部長になりました、尾石智洋です。日本協会では、2020年東京オリンピックを迎えるにあたり、様々な強化活動が始まっております。特にオリンピック出場を皮切りに、ナショナルチームの強化を含め、ハンドボール界全体の競技者及び関係者の活性化が見込まれます。このような中、とても重要なことを育成部で認識して取り組んでいこうと考えております。

日本で行われるオリンピックの大きな意義は、オリンピック開催を通して、「世界の平和を願う気持ちを育てること」や「人間力を向上させること」です。そして、「日本人の楽しく豊かな生活を高めること」です。今あるすばらしい環境をさらに高めていくことが開催の意義だと思います。そのために、各地域でスポーツという文化を正しく学び発展させていくことや、子供たちにどのような教育を受けさせるべきかという、指導者育成が重要になります。そこで、育成部発足の目的を、ハンドボール競技の発展に置き、小・中学生の正しい育成方法を検討し、指導方針を決定していきたいと考えています。

また、ハンドボール競技を通して、「スポーツ文化の向上」及び「人間力向上」を重点に置いた指導体制作りに最善を尽くしていきます。これは、～ PLAYERS FIRST ～の理念に基づき「心・技・体」のバランスのとれた育成システムを構築していくことです。そのために、勝負にこだわる強い気持ちをもち、そして勝敗を超えて人間力を高めようとする気持ちももち、体格・体力をも考えた「世界基準」をスタンダードにしていきたいと思います。以下に具体的な方針を示したいと思います。

（基本方針 1）指導方法の検討・共有を行う
- 正しい指導方法を検討し共有し、基礎基本の指導法を作り上げる。
- 日本人選手に必ず必要な標準装備とオプションを見極め、指導する。

（基本方針 2）各大会等での選手選考基準の共有を行う
- 各大会の目的を考え選考する。（大会での貢献性、将来性等）
- 優れた選手の統一化・共有化。（指導と選考［評価］は表裏一体である）

（基本方針 3）強化部及びアカデミー及び NTS と連携強化を行う
- 「～ U13 ～ U16 ～アカデミー～」の一貫指導。（U18 以降の活動との連携）
- NTS 指導の方向性の共有化及び連携強化

（基本方針 4）小学生・中学生の競技人口の増加を目指す
- 小、中学生の活動状況の把握及び今後の活動方法の検討。
- 学校組織とクラブ組織の協力体制の強化。
- 指導者育成体制の確立。
- ハンドボール競技の楽しさを感じさせる取り組み。（ボールサイズやルールの検討等）
- 施設使用の増加を目指す。（コートサイズやワックス使用の検討等）

（基本方針 5）小学生委員会・中学生委員会でのまとめを上層会議にて報告・提案を行う
- ワーキングチームを立ち上げ意見集約
- PLAYERS FIRST の理念に基づく体制改革

【参考】2016 中学生委員会ワーキングチーム
①ボールサイズについて
②ルールやハード面について
③講習会・トライアウトについて
④選考・Jr アカデミーについて
⑤クラブチームについて
⑥ JOC 全国大会について

不易と流行の一体化を意識し、様々な環境におかれている全ての人々が元気になれるハンドボール界を目指しがんばって行きたいと思います。力不足ではありますが、何事にもプラス思考で取り組んで行きたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

日韓定期戦 2016（女子）

2016 JAPAN KOREA HANDBALL SUPER MATCH

開催地：韓国・ソウル
会場名：SK オリンピック
ハンドボール体育館
日　時：2016 年 6 月 25 日(土)

戦評　日本　17（10－16, 7－21）37　韓国

お互いにテクニカルミスから始まった前半序盤、韓国のミスを逃さずに速攻で塩田がロングを、セットオフェンスでは横嶋が中央からカットインを決めて 2 対 0。日本が先に試合の主導権を握った。その後、韓国もベテランプレイヤー、ウ・ソンヒのサイド、シム・ヘインのカットインで得点を奪うが、横嶋のゲームメイクで原のロングや、池原のサイドでチャンスを創出し、日本も得点を奪い返す。16 分過ぎまで 7 対 6 と日本が 1 点リードし、ここで韓国がタイムアウトを請求。ここから韓国が息を吹き返し、18 分過ぎに 8 対 8 の同点に追いつくと、立て続けに日本のテクニカルミスから速攻を決め、4 連続得点で 12 対 8 と逆転する。日本は 7 人攻撃でのチャンスメイクや、GK 白石の好セーブなどで応戦するが、要所でシュートを決めきることができずに前半を 10 対 16 で折り返す。

後半、日本は序盤から積極的に 7 人攻撃を仕掛け、7mT やシュートチャンスを作るも、得点を決めることができない。また、テクニカルミスもあり、なかなか点差を詰めることができない。日本は DF を高い位置での機動的なシステムに切り替え、韓国の攻撃を食い止めようと試みるが、韓国の多彩な速攻や 1 対 1、2 対 2 を阻止できず、後半 8 分には 12 対 22 と 10 点のリードを奪われる。中盤から終盤にかけて、日本はセンタープレイヤーに横嶋、川村、河原畑のタイプの異なる 3 人を起用し、得点チャンスを伺う。池原、勝連のサイドなどで得点を返すも、点差を縮めることはできず、最終スコア 17 対 37 で敗戦となった。

【得点者】塩田、池原 4 点　横嶋、勝連、川村 2 点　原、永田、田中 1 点

5点共　写真提供：スポーツイベント社

2016 日韓定期戦スタッツ報告（女子）

女子日本代表チーム 分析：嘉数 陽介

6月25日韓国にておこなわれた日韓定期戦において、日本は17対37で韓国に敗れました。今回は、韓国ハンドボール協会サイトに公開されたこの試合のスタッツから集計を行い、昨年10月名古屋にておこなわれたリオ五輪アジア予選のデータと比較（表参照）をしながら報告致します。

日韓定期戦のデータにおいて、攻撃回数は60回にのぼり、アジア予選に比べて若干の増大が見られる。これは日本チームが速攻やクイックスタートに注力したためと考えられる。しかし、攻撃成功率は28%とアジア予選時に比べて9%低い。さらにミス率は23%と、極めて悪い数値ではないが、アジア予選時より2%増加しており、20%以下に抑えることができなかった。シュート率に関しては37%と極めて低く、リオ五輪アジア予選に比べて10%低下した。シュート力及び精度の向上は、これまで同様、優先課題であると言える。しかしながら、ディスタンスシュート（DSシュート）に関しては、絶対値が少ないながらも唯一韓国を上回る67%であった。この結果に関しては、原因の追求を行うことで、従来の課題であるディスタンスシュート力・精度の向上につなげたい。また、GK阻止率は30%を記録し、リオ五輪アジア予選時から8%の向上が示されたものの、韓国に比べると24%の大きな差が見られる。

今大会の量的分析では、攻撃成功率やシュート成功率など全体的に低値が示されたが、質的観点からは違った反省や多くの収穫が得られた。新チームが始動し、最初の段階でウルリック新監督が特に注力している戦術には、速攻やクイックスタート、7人攻撃などが挙げられる。この試合において、相手のシュートミスや得点の後に、速攻・クイックスタートを仕掛け、多くの得点チャンスを創出できたことは、短い合宿期間のなかで時間をかけて取り組んできたチームにとって非常に大きな成果となった。また、セット攻撃において練習してきた7人攻撃では、狙い通りに広いスペースを作り出し、得点チャンスを創出する場面が多く見られた。これらの成果を継続的に洗練させることで、より確率の高い得点チャンスの創出や、新ルールに対応するための戦術を先取りできると考える。

2015 リオ五輪アジア予選（女子）

	JPN（リオアジア予選）				KOR（リオアジア予選）			
攻撃	21	／	57	37%	35	／	55	64%
ミス	12	／	57	21%	10	／	55	18%
シュート	21	／	45	47%	35	／	45	78%
DSシュート	6	／	22	27%	10	／	13	77%
CSシュート	13	／	18	72%	21	／	26	81%
FBシュート	2	／	5	40%	4	／	6	67%
GK阻止（枠内シュート）	5	／	40	13%	13	／	34	38%
GK阻止（全シュート）	10	／	45	22%	24	／	45	53%

2016 日韓定期戦（女子）

	JPN（日韓定期戦）				KOR（日韓定期戦）			
攻撃	17	／	60	28%	37	／	60	62%
ミス	14	／	60	23%	7	／	60	12%
シュート	17	／	46	37%	37	／	53	70%
DSシュート	4	／	6	67%	7	／	14	50%
CSシュート	13	／	39	33%	28	／	36	78%
FBシュート	0	／	1	0%	2	／	3	67%
GK阻止（枠内シュート）	8	／	45	18%	18	／	35	51%
GK阻止（全シュート）	16	／	53	30%	25	／	46	54%

（濃い網掛け）相手に劣っているデータ
（薄い網掛け）相手に勝っているデータ

リオデジャネイロ・オリンピックハンドボール競技結果

女子はロシア、男子はデンマークがいずれも初の金メダル

2016年8月6日の女子予選リーグから開始されたリオ・オリンピックハンドボール競技は、最終日21日の決勝戦まで全76試合が行われた。女子は決勝でフランスを破りロシアが初優勝（旧ソ連時代は2度の金メダルがある）、男子も決勝でオリンピック3連覇を掛けたフランスを破りデンマークが初の優勝を飾った。女子全体のシュート得点率は56%、キーパー阻止率は32%、男子のそれは、各々、61%、28%であった。

女　子

【順位】

1. ロシア
2. フランス
3. ノルウェー
4. オランダ
5. ブラジル
6. スペイン
7. スウェーデン
8. アンゴラ
9. ルーマニア
10. 韓国
11. モンテネグロ
12. アルゼンチン

【オールスターチーム、最高殊勲選手と得点王】

MVP：
Anna Vyakhireva（RUS）

■オールスターチーム

ゴールキーパー：Kari Aalvik Grimsbo（NOR）
左サイド：Polina Kuznetzova（RUS）
左バック：Allison Pineau（FRA）
センターバック：Daria Dmitrieva（RUS）
右バック：Alexandra Lacrabere（FRA）
右サイド：Nathalie Hagman（SWE）
ピボット：Heide Loke（NOR）
得点王：Nora Mork（NOR）–62ゴール

男　子

【順位】

1. デンマーク
2. フランス
3. ドイツ
4. ポーランド
5. クロアチア
6. スロベニア
7. ブラジル
8. カタール
9. エジプト
10. アルゼンチン
11. スウェーデン
12. チュニジア

【オールスターチーム、最高殊勲選手と得点王】

MVP：
Mikkel Hansen（DEN）

■オールスターチーム

ゴールキーパー：Niklas Landin Jacobsen（DEN）
左サイド：Uwe Gensheimer（GER）
左バック：Mikkel Hansen（DEN）
センターバック：Nikola Karabatic（FRA）
右バック：Valentin Porte（FRA）
右サイド：Lasse Svan（DEN）
ピボット：Cedric Sorhaindo（FRA）
得点王：Karol Bielecki（POL）–55ゴール

オリンピック・ハンドボール競技結果

女子

	開催年	開催地	参加国	優勝	2位	3位	日本	開催国順位
1	1976	モントリオール	6	ソ連	西ドイツ	ハンガリー	5位	最下位
2	1980	モスクワ	6	ソ連	ユーゴスラビア	西ドイツ	不出場	金メダル
3	1984	ロサンジェルス	6	ユーゴスラビア	韓国	中国	不出場	5位
4	1988	ソウル	8	韓国	ノルウェー	ソ連	不出場	金メダル
5	1992	バルセロナ	12	韓国	ノルウェー	統一ドイツ	不出場	7位
6	1996	アトランタ	12	デンマーク	韓国	ハンガリー	不出場	最下位
7	2000	シドニー	12	デンマーク	ハンガリー	ノルウェー	不出場	最下位
8	2004	アテネ	12	デンマーク	韓国	ウクライナ	不出場	最下位
9	2008	北京	12	ノルウェー	ロシア	韓国	不出場	6位
10	2012	ロンドン	12	ノルウェー	モンテネグロ	スペイン	不出場	最下位
11	2016	リオデジャネイロ	12	ロシア	フランス	ノルウェー	不出場	5位
12	2020	東京						

男子

	開催年	開催地	参加国	優勝	2位	3位	日本	開催国順位
1	1936	ベルリン	6	ドイツ	オーストリア	スイス	不出場	金メダル
2	1972	ミュンヘン	16	ユーゴスラビア	チェコスロバキア	ルーマニア	11位	4位
3	1976	モントリオール	11	ソ連	ルーマニア	ポーランド	9位	最下位
4	1980	モスクワ	12	西ドイツ	ソ連	ルーマニア	不参加	銀メダル
5	1984	ロサンジェルス	12	ユーゴスラビア	西ドイツ	ルーマニア	10位	9位
6	1988	ソウル	12	ソ連	韓国	ユーゴスラビア	11位	銀メダル
7	1992	バルセロナ	12	統一ドイツ	スウェーデン	フランス	不出場	5位
8	1996	アトランタ	12	クロアチア	スウェーデン	スペイン	不出場	9位
9	2000	シドニー	12	ロシア	スウェーデン	スペイン	不出場	最下位
10	2004	アテネ	12	クロアチア	ドイツ	ロシア	不出場	6位
11	2008	北京	12	フランス	アイスランド	スペイン	不出場	最下位
12	2012	ロンドン	12	フランス	スウェーデン	クロアチア	不出場	最下位
13	2016	リオデジャネイロ	12	デンマーク	フランス	ドイツ	不出場	7位
14	2020	東京						

リオ五輪メモ【審判名簿】

IHFから、リオオリンピックのレフェリー名簿が公表された。

欧州から11ペア、アジア地区から2ペア、アメリカ地区から開催国のブラジルが1ペア、アフリカ地区から1ペアの合計15ペアであり、内、女子レフェリーは、フランス、ノルウェー、ロシアから各1ペアの合計3ペアが含まれる。アジア地区からの2ペアは、イランと韓国から選ばれている。

過去IHF公表のオリンピックレフェリー名簿では各大会での選出組数が異なっている。

1936（ベルリン）8ペア
1972（ミュンヘン）12ペア
1976（モントリオール）12ペア
1980（モスクワ）12ペア
1984（ロサンジェルス）12ペア
1988（ソウル）12ペア
1992（バルセロナ）12ペア
（日本から、島田／後藤ペアが選ばれる）
1996（アトランタ）12ペア
2000（シドニー）16ペア
2004（アテネ）13ペア
2008（北京）15ペア
2012（ロンドン）17ペア
2016（リオデジャネイロ）15ペア

◆女子決勝レフェリー：
ROEN Guro / ARNTSEN Kjersti
（ノルウェー女子ペア）

◆男子決勝レフェリー：
RALUY Oscar /
SABROSO RAMIREZ Angel
（スペイン）

◆女子3位決定戦レフェリー：
BONAVENTURA Charlotte /
BONAVENTURA Julie
（フランス女子ペア）

◆男子3位決定戦レフェリー：
HORACEK Vaclav / NOVOTNY Jiri
（チェコ）

第6回 女子ユース 世界選手権

6th Women's Youth(U18) Handball World Championship

大会期間：2016年7月19日(火)ー31日(日)
開催都市：スロバキア・ブラティスラバ

最終順位

優勝：ロシア	10位：アンゴラ	18位：アルゼンチン
準優勝：デンマーク	11位：ドイツ	19位：パラグアイ
3位：韓国	12位：ブラジル	20位：チリ
4位：ノルウェー	13位：スロバキア	21位：カザフスタン
5位：ハンガリー	14位：ルーマニア	22位：中国
6位：フランス	15位：スペイン	23位：コンゴ
7位：スウェーデン	16位：スロベニア	24位：ウズベキスタン
8位：クロアチア	Presidentu'sCUP	
9位：エジプト	17位：**日本**	

選手団名簿

役職	名前	所属
監督	石川浩和	(公財)日本ハンドボール協会 佼成学園女子高校
コーチ	辻賀奈子	(公財)日本ハンドボール協会 京都府立すばる高校
ドクター	貝沼圭吾	(公財)日本ハンドボール協会 国立病院機構三重病院
トレーナー	宿利政生	(公財)日本ハンドボール協会 東京・三鷹／連雀整骨院
情報分析	日比敦史	(公財)日本ハンドボール協会 筑波大学大学院

背番号	名前	所属	出身校
1	榎　和奏	大阪体育大学	福岡女子商業高校
2	澤田のどか	大阪教育大学	高松商業高校
3	林　玲花	中京大学	氷見高校
4	浜　真尋	中京大学	小松市立高校
5	吉岡紗耶	大阪体育大学	四天王寺高校
6	行本朱里	日本体育大学	川崎市立高津高校
8	並木梨紗	東京女子体育大学	群馬県立富岡東高校
9	中村千香	同志社大学	小松市立高校
10	野崎美来	大阪教育大学	名古屋経済大学市邨高校
11	新川紫央	関西大学	宣真高校
12	金山桃歌	高岡向陵高校	富山市立堀川中学
13	中村風夏	川崎市立高津高校	川崎市立西中原中学
14	中山佳穂	夙川学院高校	夙川学院中学
15	金城ありさ	佼成学園女子高校	浦添市立港川中学
16	冨岡佑貴	関西福祉科学大学	高松商業高校
17	八田桃子	日本女子体育大学	昭和学院高校
18	中筋輪子	天理大学	宣真高校

世界選手権を振り返って

U-18女子日本代表キャプテン　澤田 のどか

私達U-18女子日本代表チームは7月19日～31日までのスロバキア・ブラチスラバで開催されました第6回女子ユース世界選手権に参加させていただきました。

今大会では昨年のアジア選手権とメンバーが半分ほど入れ替わり、国内合宿は2回だけということでとても不安がありました。2回だけの合宿でどう全員が一つになれるか、世界と戦うためには何をすべきか、たくさん考えました。監督・サポーターの方々はたくさんの課題を与えてくださり、世界の厳しさを知るために自分たちよりもスピード・パワーのある大学生の方々と練習試合をさせていただくなど、世界に向けての練習に励みました。

予選リーグの結果は1勝3敗1分という結果になり、上位リーグに上がることができず悔しい結果になりました。最初のアンゴラ戦では、チーム全員が自分たちの思った通りの力を発揮できず、25対25と引き分けになり、勝てる試合を逃してしまいました。ヨーロッパ1位のロシアとの対戦は10点差以上で敗れました。ロシア選手の大きさ、技術に私たちはひるんでしまい積極的にいけませんでした。予選リーグでは自分たちの力を発揮出来ず、不甲斐ない結果となりとても悔しく、情けない気持ちになりました。しかしいつまでも落ち込んではいられません。チーム全員でもう一度、自分たちらしいプレーは何なのか、自分たちに足りないものは何なのかと考え話し合いました。そしてあと2試合は絶対勝つと決意を固めました。順位決定戦では全員が心を入れ替え挑みました。中国に勝つことができ、最終戦はアルゼンチンとの試合でした。アルゼンチン戦は、一番全員の力が発揮できた試合でした。最後は相手と1点を争う展開となり、全員が一つになりラスト2秒で点を決め32対31で勝つことができました。

最後の最後で全員が一つになり、勝つことができたのはうれしかったです。しかし、最初からこの調子でいけていたら結果は変わったかもしれないと悔やんでも悔やみきれません。17位という結果をこれから私たちがどのように捉え、どのように繋げていくか大切な課題だと思います。

U-18に選んでいただきチーム戦の一人一人の役割、何があっても諦めない心などたくさんのことを学ぶことができました。この大会での貴重な経験を生かし、これからも日々精進してきます。

最後になりましたが、先生方、多くの役員の方々、一緒に戦ってくれた皆、応援してくださったたくさんの方々、本当にありがとうございました。

帯同報告 U-18 情報分析　日比 敦史

私は今回、第６回女子ユース世界選手権に出場する日本チームに情報分析スタッフとして帯同させて頂きました。女子ユースのカテゴリーに情報分析スタッフが配置されるのは初めてのことであり、また私自身、初めての代表活動でした。多くの期待と不安がある中、日本を発ち、スロバキアへと向かいました。

大会中の私の主な仕事は、情報収集と映像の編集でした。まず、情報収集では、対戦相手の映像やメンバー、これまでのスタッツなどを集めました。メンバーやスタッツなどは、IHF のホームページに詳細が載っていたため、それをダウンロードして利用しました。また、映像に関しては、大会側がすべての試合映像を配布しており、それをホテルでダウンロードしていました。しかし、中には用意されていない試合や、アップロードの遅い試合もあったため、現地で実際に撮ったり、個人的に YouTube からダウンロードしたりもしました。映像の編集では、次の試合に向けたミーティングで見せるための映像を作りました。入手した試合の映像を編集し、対戦チームのセット OF、セット DF、速攻、速攻に対する DF、各選手がプレーしているシーンをそれぞれまとめ、石川監督、辻コーチと話をした上で選手たちに見せていました。それ以外には、自分たちの試合の分析や、映像の分類分けもしていました。これは、もし使うときがあったら、と思い準備していました。

初めての帯同で様々なことを経験し、反省点も多く見つかりました。特に、もっとチームスタッフとコミュニケーションを取る必要があったと思いました。例えば、ミーティングにおいて映像を見せる時、実際にその場で見せるのは私の仕事でしたが、最終的なシーンの選別は監督とコーチでした。そのため、ミーティングで見せる映像には監督やコーチが思い描くゲームプランの意図がありました。しかし、私は一度、ミーティングで自分が思ったことをしゃべりすぎてしまい、選手に必要以上の情報を与えてしまいました。その時は、ただチームのために必要な情報だと思って発言したのですが、監督から指摘されてその過ちに気づきました。私は、所属する筑波大学ハンドボール部でも情報分析活動をしているのですが、そこでは自分の意見を求められることもしばしばあります。しかし、チームが変われば自分の役割も変わってきます。もちろん、私は全力で取り組みましたが、それが常に正しいのかと言われれば、そうではないと身に染みて感じました。ミーティングでの過剰な発言以外にも、私の活動には無駄がありました。自分たちの試合の分析も細かく行っていましたが、結局それはほとんど使いませんでした。もし、それを削っていたら、より早く映像の準備ができ、監督やコーチとそれまで以上に厳選できたのではないかと反省しております。それをするためには、やはり綿密なコミュニケーションが必要だったのではないかと思います。

私は、情報分析活動を行うようになって間もないころ、ある先生から「情報分析のツールは目的ではなく、手段に過ぎない」と言われました。その時はわかったようなつもりになっていましたが、今回のことで自分の身勝手さを思い知りました。今後、情報分析活動だけではなく、ハンドボールと関わっていく中で本質を見つめ続け、ハンドボールについて考え続けたいと思います。最後になりますが、本当に多くの方々のお陰さまで大会を無事に終えることができ、深く感謝しております。

帯同報告 U-18 女子代表チームドクター　貝沼 圭吾

2016 年 7 月 19 日よりスロバキア・ブラチスラバで開催されました第６回女子ユース世界選手権に、帯同ドクターとして参加させて頂きましたので報告致します。

1. 大会までの準備

第５回女子ユースアジア選手権以来、4 年間女子ユースチームの帯同ドクターとして参加させて頂いています。例年、事前合宿には必ず足を運び、石川監督と相談してアンチドーピング教育、メディカルチェック、現地情報の提供といった時間を設けています。

女子ユースのチーム構成の難しいところに、アジア選手権と世界選手権の開催時期の関係でメンバー変更が非常に多いという点にあります。今回も、昨年のアジア選手権から継続してのメンバーは６名のみということもあり、新たなメンバーとの関係性を構築するためにも、事前合宿に顔を出させて頂くことの重要性を感じています。

５月の合宿時には、アンチドーピング教育、メディカルチェックを施行、６月にはメンタルコンディション評価を目的としたアンケートを施行しました。スロバキアの事前情報としては、現地の日本人会の方にコンタクトを取り、治安、気候、水事情、日本食事情などを調査し、また現地でレストラン経営の方と連絡が取れましたので、食事に困った際などの依頼を事前にさせて頂きました。

また、大会直前に中国で開催されましたU-22 東アジア選手権に、このチームが参加しました。この大会には、自衛隊中央病院の田村格医師に帯同していただき、大会期間中から情報共有を行うことができましたので、選手らの健康状態の把握が非常にスムーズにできましたこと、誌面を借りまして御礼申し上げます。

2. 大会期間中

帯同医師の役割として、衣食住環境を整えることが疾患防止に不可欠と考えています。住環境としては、現地の気候は日本よりも気温、湿度ともに快適であり、体調変調をきたすものではないと考えられました。しかしながらホテルの床清掃が不十分であり、選手１名と私が咳嗽症状を発症し、対症療法と同時にホテルへ清掃の徹底を依頼し、また就寝時のマスク着用も当該選手に指示しました。

食環境については、事前の調査でも水環境も悪くなく、生活用水については水道水の使用が可能でした。また、食事においても生野菜、フルーツが多く準備されており、選手スタッフともに積

極的に摂取できていたように思います。ホテルの食事はある程度仕方ないですが、肉（牛、豚、鳥）また油での調理が非常に多く、消化器系には負担がやや強いもものと思われました。主食については、ライス、パン、パスタと取り揃えられていましたが、ライスが塩で味付けされており、日本人には不向きであるように感じられました。日本から日本食、米、炊飯器を携行しており、試合後の補食におにぎりを準備したり、また前述した日本食レストランに弁当を依頼することで、食事に困ることはありませんでした。

消化器関係については、数名から胃腸症状の訴えがありましたが、非感染性のものと考えられ、試合出場に支障をきたすほどの症状は呈さず、整腸剤、制酸剤で対応可能でありました。また、以前より女子ユースで施行している尿比重による体内水分量の評価を、今大会期間中も行いました。これまでタイ、インドといったアジアの高温多湿な地域では、食環境、気候により脱水を呈する選手も多く、尿比重測定が非常に有益でした。今回においても、練習試合により多量の発汗を認めた翌日に、尿比重が高くなる選手が数名認められ、持参した経口補水液の摂取を促しました。

練習、試合を通じた外傷については、海外選手との体格差、戦術（敏捷性を活かした守備間隙へのカットイン、攻撃的守備における守備範囲の広さなど）に起因する接触性外傷・疲労に伴う症状を多く認めました。また、数名の選手が膝関節または足関節の捻挫により数日別メニュー調整となった事例が生じたものの、大会期間中に復帰可能であり、高いパフォーマンスを発揮することができました。この点に関しては、練習、試合前後に徹底的にかつ、選手に寄り添ったケアを実践してくれた宿利トレーナーに心より御礼申し上げます。

私自身が審判員であるという観点からの意見としては、2016年7月からの競技規則改定に伴い、選手負傷時の対応が変更になっているので、国内外に帯同されるドクター、トレーナーには理解して頂く必要があると思われます。

またユース世代の選手たちにおいて、ベストパフォーマンスを維持させることの重要性を特に感じました。身体的には問題ないはずであっても、モチベーション的な側面に非常に左右されているように感じます。選手の大半が初めての国際大会、初めての日本代表ということもありますが、程よい緊張感を持たせ続けること、トレーニングとリカバリーのバランスをとることに、石川監督、辻コーチは苦心されていたように感じます。こうした点には今後の医科学からのアプローチすべき点があると感じた次第です。

3. ドーピングコントロール

ドーピング検査は大会3日目に尿検査による検査が行われました。ジュニア世界選手権では血液検体による検査も施行されたとのことでしたが、本大会では尿検査のみでした。施行当日にIHFメンバーであり、ドーピングコントローラーのDr. osnyより検査があることが私に伝えられました。

検査対象の抽出方法は、ハーフタイムに両チームのドクターがドーピングコントロール室へ赴き、それぞれ相手の登録選手からくじにより2名抽出し、それぞれ密封されます。後半残り時間10分前の時点で、ベンチ裏において開封作業が行われ、最初に選ばれた1名が検査対象となりました。試合に出場していた選手でしたが、試合後にスムーズに尿採取が行われ、その後のスケジュールに支障はきたしませんでした。大会委員からは、遅くなるようなら別でホテルまで送迎する、と丁寧な対応がなされていました。

今回対象となった選手からは、「これってすごく光栄なことですよね」との言葉を頂戴し、特にドーピング防止に関する教育などを行ってきた私にとっては、大変うれしい一言でした。

4. 全体を通じて

国際大会の登竜門であるユース世界選手権を見ておりますと、国を代表するという意識が他国に比べると弱いのではないかという印象が拭いきれません。国歌セレモニーの様子を見ていますと、他国の選手は士気高揚の度合いが強いように感じます。代表選手というモチベーション教育を、いかにユース世代から積み重ねていくかということも一つの課題であるように感じます。今年度、ドーピング防止教育講義を各カテゴリーで行うこと、また代表選手におけるEラーニングを必修化させることも、その一環と位置付けております。お時間を取らせますが、なにとぞご協力頂ければと存じます。

「心技体」という日本のスポーツ文化において大切な言葉があります。この3つの総和がパフォーマンスに直結するものであると考えられています。心・技・体をそれぞれ一つずつ鍛えていくべきものではなく、この心技体を一つのものとして育てていく必要があると考えられています。医科学を専門とする私共が、その一助になり得ればと強く考えています。指導の先生方とコミュニケーションを取らせて頂き、より具体的な課題に取り組めればと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いします。

最後になりますが、本大会をともにさせて頂きました石川監督、辻コーチ、宿利トレーナー、日比分析スタッフと17名の選手の皆様に感謝とともに益々の発展をお祈りするとともに、派遣に際してご尽力頂きました日本ハンドボール協会事務局、医事委員会の皆様、また勤務先に心より感謝申し上げ、私の報告とさせて頂きます。

参加報告　国際審判員　太田 智子　島尻 真理子

第6回女子ユース世界選手権に参加して

7月19日から7月31日までの日程でスロバキアの首都ブラチスラヴァで開催の第6回女子ユース世界選手権に、レフェリーとして参加してまいりました。今回は、その大会の様子および指導を受けた内容についてご報告させていただきます。

今大会の競技方式は、各大陸の予選を通過した24ヶ国が6ヶ

国ずつの4組に分かれ予選ラウンドを行ない、その後、各組上位4位までがエイトファイナルと呼ばれる決勝トーナメントに進出、各組5、6位はプレジデントカップ（順位決定戦）へ進出するという方式で行われました。

ノミネートされたレフェリーは全部で16ペア、そのうち7ペアが女性ペアでありました。私たちがノミネートされた国際大会はまだまだ少ないですが、女性ペアがノミネートの約半数を占める大会というのは初めてであり、IHF登録の女性レフェリーの約半分が、この大会にノミネートされていたことになります。このレフェリー団（ビザの関係でイラクとエジプトが大会初日となる19日からの参加ではありましたが）とテクニカルデレゲートとPRC（Playing Rules and Referees Commission）、CCM（Commission of Coaching and Methods）のレクチャーは、各大会において開幕直前に必ず実施されるミニコースに参加するため、7月16日にはブラチスラヴァに到着という日程で現地入りをしました。

そして翌17日より2日間にわたり、9時過ぎから休憩やランチを挟みつつ19時過ぎまで、研修やシャトルランテスト、ルールテストといった研修プログラムをこなしました。

2日間の研修では、今年の7月1日より実施となった新競技規則、『選手が負傷した場合』『パッシブプレー』『終了前30秒間』『ブルーカード』『7人のコートプレーヤー（ゴールキーパーとコートプレーヤーの交代）』の5項目についての内容が主として行われました。日本協会より7月3日付の通達で出されている『2016年度競技規則変更の概要』からの変更等はありませんでしたが、直前にロシアで開催された女子ジュニアの世界選手権で起きた事象も使用するなど具体的な映像を交えながら、より詳細なレクチャーを受けました。その他には、今日のハンドボールにおいて攻撃戦術のキープレーヤーの一人であるピボットに関して、防御側、攻撃側それぞれのファールについても、多数の映像を用いてのレクチャーが行われました。この研修では、新競技規則も含め混乱をきたすことなく基準（ルール）は1つであるという共通認識を図る場となりました。

今大会において、実際にブルーカードを使用する場面はありませんでしたが、レッドカードとなる事象はいくつかありました。しかし、競技規則の変更に伴った「選手が負傷した場合」「パッシブプレー」「7人のコートプレーヤー」の事象は、1試合で数回は必ずといっていいほど発生していました。特に「7人のコートプレーヤー」を用いたチーム戦術は、ほとんどの国で採用されており、競技規則変更前までチーム戦術の一つとして用いられていたコートプレーヤーがゴールキーパーと同じユニフォーム（あるいは同色のゼッケン）を着用し攻撃に加わるという戦術を用いるチームは、今大会では見受けられませんでした。予選リーグよりこのコートプレーヤー7人による攻撃戦術は多用されていましたが、ボールの保持が相手に変わった際にシュートの阻止を目的として、ボールを投げようとしているプレーヤーへのファールや、ゴールエリア内に入ってボールを阻止しようとした行為はありませんでした。この戦術は1名退場の際にも用いられており、「コート上がコートプレーヤーのみ（攻撃側チーム）」＝「（相手チームがボールを保持した際は）明らかな得点チャンス」となることから、レフェリーはそのことも頭に入れながらレフェリングをする（準備をする）必要があるとの指導もありました。また、「パッシブプレー」に関しては両レフェリーでヘッドセットを用いて合図を送り予告の合図を出すこと、「選手が負傷した場合」においては、攻撃中に負傷した（であろう）選手がその後のプレーに影響を及ぼすことがないよう早い段階でタイムアウトを取る（例えば、防御側の選手が倒れそのスペースに攻撃側の選手が到達する前にタイムアウトを取る必要がある）、負傷したプレーヤーがいてもまずは速攻やクイックスタートの状況を最優先としレフェリーの笛によってその状況を壊さない（特に明らかなハリウッドアクションで選手が倒れた際に速攻の中断をしてはいけない）等、大会期間中での指導、あるいは競技規則の変更に伴い起こりえるであろう事象として事前に行われた研修において指導がありました。

それ以外にも、大会期間中、夕方からの試合の日や休息日等の午前中の時間帯を利用し、前日までに行われた全試合を対象に、写真や映像を用いてミーティングを行いました。ミーティングは、GALLEGO氏を中心にPRC（規則審判委員会）インストラクターの方々が、全体に向けてあるいはミーティング終了後に個別にアドバイスをする形で行われました。指導内容としては、ジェスチャー等ボディランゲージを用いて伝えること（例えば「Strong 2min」という表現を用いていたが、通常の2分間退場とは異なり、よりレッドに近いファールに対しては、しっかりと強いボディランゲージを用いて判定をする）、罰則や7mTの基準は60分間一定であること、罰則のタイミングと使い方（パスを受けた選手が明らかな得点チャンスとならないのであればそのタイミングで止める等）、コート上でのレフェリー動き（立ち位置、動き方、振る舞い方等）、レフェリーはロボットでないこと（機械的になりすぎるあまり、スピードハンドボールのチャンスを壊さない）、レフェリーもスポーツマンであること（日々のトレーニングと体のケアを充分に行うこと）といった指導を受けました。また、今大会の事前の研修、大会期間中での全体ミーティング、個別指導において、ステップに関する指導がなかったことも、併せてご報告させていただきます。

私たちは、レフェリーとしてエイトファイナルに進むことができず、悔しい気持ちと申し訳ない気持ちでの帰国となりました。今大会で収穫できたことはもちろんですが、ペアとして、個人として見つけた課題、不足していた部分が、たくさんありました。ハンドボールも、7人攻撃をはじめ日々新しい戦術が生まれ、進化しています。私たちも一つ一つ解決し前に進むためにも、トレーニングや実際の吹笛、知識において、一日一日を向き合っていかなければなりません。そのことを忘れず、今後も精進してまいります。

最後になりますが、私たちがこの女子ユース世界選手権に参加するにあたり、ご理解・ご協力をいただきました日本協会をはじめとするハンドボール関係の皆さま、快く参加を後押ししていただいた職場の皆さま、日頃よりご指導いただいております諸先輩方に、末筆ながら感謝を申し上げるとともに、女子ユース世界選手権のご報告とさせていただきます。

戦評

■７月19日（火）：Ａグループ予選
日本　25（9-13、16-12）25　アンゴラ

日本の初戦はアンゴラ。LW 吉岡、LB 林、CB 浜、RB 金城、RW 中山、PV 行本、GK 榎でディフェンスからスタート。立ち上がり、選手たちには固さが見られた。開始早々に先制点を許した後、7mT を２本外している間に得点を重ねられ、８分過ぎに０対４とされてしまう。その後、並木のサイドシュートが決まり１点返すものの、悪い流れを断ち切れず、15 分までに１対９とリードを許してしまう。15 分過ぎからはお互いにミスがありもたついたが、その中で吉岡、澤田、金城らの得点を重ねていった日本が僅かながら盛り返し、前半を９対 13 の４点差で折り返す。

後半に入り、日本に流れが傾き始める。吉岡のサイドシュート、中山の連続得点で後半開始５分を待たずに 12 対 14 と２点差に追い詰め、アンゴラにタイムアウトを取らせる。タイムアウト明けには行本の退場もあり 12 対 16 と再び４点差にされてしまうが、そこからは相手の退場を誘いつつ果敢にゴールを狙う姿勢が功を奏し、10 分過ぎにはついに 16 対 16 の同点に追いつく。その後、日本はリードこそ奪えないものの、粘り強い攻防によって一進一退の状況が続く。そして 27 分、吉岡のシュートによって 25 対 24 とし、待望の勝ち越し点を得る。ここでアンゴラがタイムアウト。是が非でも守り抜きたい日本だったが、ダブルポストをうまく使った相手の攻撃を防げず、すぐに追いつかれてしまう。再度の勝ち越し点が欲しい日本だったが、あと一歩のところでシュートが入らず、逆に相手の速攻によってノーマークの得点チャンスを与えてしまう。しかし、榎がこれを積極的なキーピングによってシャットアウトし、タイムアップの笛を迎える。

初戦を 25 対 25 の同点で終えた日本は、この引き分けを次につなげていけるかどうかが大切になってくるだろう。この試合の優秀選手に行本が選ばれた。

［個人得点］ 中山：８点、吉岡：５点、並木・金城：３点、中村風：２点、澤田・林・浜・行本：１点

■７月21日（木）：Ａグループ予選２試合目
日本　39（18-11、21-8）19　チリ

予選リーグ２試合目はチリ。日本は LW 吉岡、LB 中村風、CB 行本、RB 金城、RW 中山、PV 並木、GK 榎でスタート。序盤はディフェンスの足がよく動き、先制点こそチリに奪われるものの、相手のミスを誘い出し、吉岡、行本、中山らの速攻を中心にゴールを重ね、前半７分過ぎに６対２と４点差をつける。ここでチリがタイムアウトを要求。タイムアウト後は日本にミスが見られ始め、金城の退場もあり 12 分過ぎに７対６と１点差まで詰め寄られる。しかし、ここで日本はタイムアウトを取り、態勢を立て直す。タイムアウト明けは並木の速攻をはじめ、林、浜、野崎、八田らの活躍により、徐々に突き放していく。ディフェンスではチリのライン際を狙う攻撃に苦戦するも、日本の攻撃力がそれを上回り、前半を 18 対 11 として折り返す。

後半に入っても日本の攻勢は続く。後半２分過ぎに並木が 7mT を決めると、吉岡、新川がそれに続くゴールを決める。退場やテクニカルミスなどの失策があるものの、それをチリもものにできず、日本のペースで試合が進んで行く。後半 12 分過ぎに浜の速攻が決まり、26 対 14 となるとチリはタイムアウトを取るが、日本の攻撃は止まらず、吉岡、中村風らのシュートにより、後半 19 分頃には 30 対 14 と大量リードを奪う。日本はディフェンスにおいてやはりライン際で苦しんだが、金山のセーブなどで流れを離さない。終盤は中村風、中山らが速攻を決めていき、最終スコア 39 対 19 でタイムアップを迎える。

これで日本はリーグ戦１勝１分け。３戦目からはヨーロッパ勢との戦いを迎える。次のクロアチア戦に向け、この流れをうまく持っていけるかどうかが勝負になるだろう。なお、この試合の優秀選手として、吉岡が選ばれた。

［個人得点］ 中山：11 点、吉岡：６点、並木：５点、行本：３点、林・浜・野崎・新川・中村風・金城・八田：２点

■７月22日（金）：Ａグループ予選３試合目
日本　26（17-15、9-15）30　クロアチア

予選リーグ３試合目はクロアチア。日本は LW 吉岡、LB 中村風、CB 行本、RB 金城、RW 中山、PV 並木、GK 榎でスタート。立ち上がり、先制点をクロアチアに奪われ、オフェンスではシュートを立て続けに外してしまう。しかし、この日もディフェンスはよく機能しており、前半３分、相手のミスを中山が得点につなげ、日本が初得点を挙げる。その後もシュートミスこそあるものの、吉岡が２点決め、６分過ぎまで３対３とする。しかし、そこからクロアチアのカットインや１次速攻によって離されはじめ、11 分過ぎに４対８とされる。ここで日本はタイムアウトを取り、立て直しを図る。12 分過ぎ、吉岡のサイドシュートが決まり、それに浜、金城らが続く。少しずつ日本のシュートが決まり始める。依然としてクロアチアの高い攻撃力に苦しめられるも、相手のミスを確実に得点に変えることができ始める。21 分過ぎ、行本の速攻によって、ついに 11 対 11 の同点に追いつく。クロアチアはタイムアウトを要求するが、日本の流れは止まらない。タイムアウト明けの攻撃を守り、吉岡が速攻を決め、12 対 11 と勝ち越す。さらに浜、中山、金城らがゴールを決めていき、前半を 17 対 15 の２点リードで折り返す。

後半に入ると、クロアチアの反撃が始まる。２分過ぎにクロアチアにカットインを決められると、日本のシュートミスを１次速攻につなげられ、後半開始３分で 17 対 17 の同点に追いつかれる。さらに後半５分には 17 対 18 とリードを許し、そこから日本はクロアチアを追う展開になっていく。榎のセーブもあり、なんとかついていこうとするも、日本はオフェンスでミスが続き、徐々に離されはじめる。17 分過ぎに 20 対 24 と４点差をつけられ、日本はタイムアウトを要求。その後、並木の 7mT が決まり 21 対 24 となるも、クロアチアの攻勢はやまない。終盤まで日本はチャンスをつかめないまま進む。しかし、中山、金城らが最後まで必死に戦い、クロアチアについていく。タイムアップの笛が鳴り、最終スコア 26 対 30 の４点差でゲームを終える。

これで日本は１勝１分１敗。残り２試合、強敵との連戦の中で、何としても１勝が欲しいところである。なお、この試合の優秀選手として、吉岡が選ばれた。

［個人得点］ 吉岡：８点、中山：７点、金城：５点、浜・並木：２点、林・行本：１点

■７月24日（日）：Ａグループ予選４試合目
日本　25（14-20、11-16）36　ロシア

予選リーグ４試合目はロシア。日本は LW 吉岡、LB 林、CB 澤田、RB 金城、RW 中山、PV 並木、GK 榎でスタート。日本は立ち上がりからミスを連発し、開始３分を待たずに０対３とリードを許す。ここで日本は早めのタイムアウトを取り、立て直しを図る。タイムアウト明けには吉岡のサイドシュートが決まり、そこからはお互いに点の取り合いが続く。日本は中山、金城が積極的に前を狙い、得点を積み重ねていく。澤田らもそれに続いていき、なんとか追いつこうとするも、相手の攻撃が止まらない。日本のオフェンシブでアグレッシブなディフェンスに対しロシアは体格を活かしたポストシュート、ロングシュートを得点源に、ダブルポストに移行する攻撃を使い攻めてくる。日本は自分たちのディフェンスのペースにはめようとするも、セーフティなパスを確実に選ばれ、なかなか自分たちの持ち味が活かせない。１点差まで迫る場面もあるものの、そのままじりじりと離され、前半を 14 対 20 の６点ビハインドで終える。

後半に入っても、ロシアの攻撃は脅威なままである。同じような攻撃パターンを使って攻めていることがわかっていても、ロシアの選手に最後に上手に判断されてしまい、日本はディフェンスにおいて先手を取ることができない。オフェンスでは、並木、中山、金城らが身長

戦評

差を感じさせないシュートを何本も決め、諦めない姿勢を見せるが、ロシアのディフェンスを崩すことができない。結局後半も押し返すことができず、最終スコア25対36で敗れる。攻守にわたりロシアに圧倒され、まさに完敗というゲーム内容であった。

これで日本はグループリーグ1勝1分2敗。グループリーグ突破は次戦に持ち越しとなる。最終戦、ドイツとの試合に勝てば、決勝トーナメント進出が決定する。この大会の結果の分岐点となる試合に対し、これまでのことを活かして戦うことが求められるだろう。なお、この試合の優秀選手として、中山が選ばれた。

[個人得点] 並木：7点、吉岡・中山・金城：5点、澤田・林・野崎：1点

■7月25日（月）：Aグループ予選5試合目
日本　24（10-15、14-13）28　ドイツ

予選リーグ最終戦はドイツ。日本はLW吉岡、LB並木、CB行本、RB金城、RW中山、PV澤田、GK榎でスタート。先制点はドイツ。日本のオフェンシブなディフェンスの間を利用し、ポストシュートを決める。日本は1分12秒、行本のミドルシュートで初得点を挙げ、1対1とする。しかしこの後、ドイツにカットインで連取され、またオフェンスでもシュートミスが続き、6分40秒に1対5とされる。日本は中山、並木、行本のシュートで反撃するが、ドイツの攻撃を止めることができない。15分過ぎ、5対9からドイツが立て続けにシュートを枠外に打ち、その隙を日本がつく。中山、金城の得点で18分に7対9と2点差まで詰め寄る。しかし後が続かず、再びドイツのカットインやポストシュートで点差を離されてしまう。日本は持ち味であるアグレッシブなディフェンスを機能させたかったが、なかなか上手くいかない。ドイツに上手く攻め込まれ、ディフェンスの高さが活きず、ライン際でのシュートばかりになってしまう。オフェンスにおいても攻め手に欠き、シュートが決まらない。前半は10対15と5点ビハインドで折り返す。

後半に入ると、日本はオフェンスでいい場面が増える。行本がロングシュートを決めると、中山、金城がそれに続き、後半6分に14対16と再び2点差とする。依然としてドイツの攻勢は続くが、吉岡、並木らが得点を挙げ、食らいついていく。13分にはミスからの速攻を決められ、18対23と5点差にされるが、ここで日本はタイムアウトを挟み、立て直しを図る。ここからドイツの得点が止まり始める。日本は澤田らが奮起し、26分過ぎ、吉岡のシュートで24対26と再び2点差にする。しかし、ドイツにあっさりと3点差に戻され、残り3分を切る。もう1本、というシュートも決まらず、反撃の機会を失う。最終スコア24対28の4点差でグループリーグ最終戦を終える。

日本はこれで1勝1分3敗、グループリーグ5位で、予選突破はならなかった。ここからはプレジデントカップとなり、少しでも上に行くために戦っていくことになる。なお、この試合の優秀選手として、金城が選ばれた。

[個人得点] 中山：7点、並木：5点、吉岡・金城：4点、行本：3点、澤田：1点

■7月27日（水）：
プレジデントカップAグループ5位vsBグループ5位
日本　30（16-10、14-11）21　中国

プレジデントカップの初戦は中国。日本はLW吉岡、LB並木、CB行本、RB金城、RW中山、PV澤田、GK榎でスタート。先制点は中国に取られるが、その直後に行本がオフェンスで取り返す。序盤はお互いに点の取り合いになり、8分過ぎたあたりで日本は4対3とリードする。しかし9分、思わぬ出来事が起こる。中山の7mTが中国のGKの顔に当たってしまい、中山はレッドカードをもらう。ここまで主力として活躍してきた中山を欠き、その後日本は攻守ともに波に乗れない時間が続く。中国にサイドシュート、カットイン、ポストシュートとノーマークシュートを決められ、なかなか離すことができない。それでも中村風、並木、金城、林が要所で決め、相手に追いつかれてもリードを許さない。前半20分の時点で8対8の同点になるが、ここから流れが日本に傾き始める。22分に相手のミスからの速攻を吉岡が決めると、次々にディフェンスからの速攻を決め、5連取。13対8と大きくリードする。その後日本もミスを速攻につなげられ失点するものの、中村風、吉岡がきっちり決め、前半を16対10の6点リードで折り返す。

後半は榎のセーブでゲームが始まる。お互いにオフェンスで点の取れない時間が続き、後半10分の時点で18対12となる。そこから先は、がっちり組み合う形になるが、日本が強さを見せる。行本、中村風、金城らが得点を積み重ね、中国に追撃の隙を与えない。また、榎も中国にとって大事な場面で再三にわたりセーブし、オフェンスを後押しする。点差こそ大きく離れないものの、中国を少しも寄せ付けず、最終スコア30対21で勝利する。終盤には新川、中筋らを投入し、多くのメンバーで戦うことができ、また金山も7mTをセーブするなど、収穫のある試合だった。

次戦は17-18位決定戦にアルゼンチンを迎える。この大会最後の試合をどう未来につなげていけるかが鍵になるだろう。なお、この試合の優秀選手として、榎が選ばれた。

[個人得点] 吉岡：7点、中村風：6点、行本：5点、金城：4点、並木：3点、林：2点、澤田・浜・中筋：1点

■7月28日（木）：プレジデントカップ17-18位決定戦
日本　32（18-14、14-17）31　アルゼンチン

プレジデントカップ17-18位決定戦の相手はアルゼンチン。日本はLW吉岡、LB並木、CB行本、RB金城、RW中山、PV澤田、GK榎でスタート。先にペースをつかんだのはアルゼンチン。開始からゴールエリアラインに近い場所で得点を重ねられる。しかし日本も金城、中山のシュートで追撃し、7分には並木のシュートで4対4の同点にする。そこからは日本が抜け出す。吉岡、並木、中山が次々にシュートを決めていき、点差を広げる。アルゼンチンは日本が6対4とリードしたところでタイムアウトを取るが、日本の攻撃は止まらない。榎のセーブもあり、17分すぎには14対7と7点差をつけ、アルゼンチンを突き放す。ここでアルゼンチンは2回目のタイムアウト。ここからは徐々にアルゼンチンが盛り返し、日本の攻撃も停滞するが、要所で榎のセーブが光り、前半を18対14で折り返す。

後半に入ると、アルゼンチンはさらに粘りを見せる。後半開始5分で浜、中山がシュートを決めるが、アルゼンチンも7人攻撃などを活かし、ポストシュートやカットインなど、前半に点が取れていたプレーを使い、確実にシュートを決めてくる。日本はシュートミスなどがあるものの、吉岡、並木らがオフェンスでシュートを決め、取られても取り返す姿勢を崩さない。金城の7mTで12分すぎに25対20と5点差をつけるが、ここからアルゼンチンが猛追する。17分までに25対24と1点差まで詰め寄られる。追いつかせまいと、日本は浜、並木のシュートで再び突き放そうとするが、アルゼンチンの攻撃に流れがきている。24分にはついに28対28の同点にされてしまう。しかしその後、吉岡がシュートを決め、逆転を許さず、追わせる展開に持ち込む。なおも粘るアルゼンチンに苦しむ中、残り30秒でアルゼンチンのシュートが決まり、31対31、再び同点にされる。ここで日本はタイムアウトを取る。残り14秒。最後のオフェンスの確認をする。そしてタイムアウト明け、クロスから大きく回り込んだ中山が残り2秒でシュートをねじ込み、32対31。日本はアルゼンチンに勝利する。

この大会を17位で終えた日本。このチームはここで解散になるが、この17位を次にどう繋げられるかが大切だろう。なお、この試合の優秀選手として、中山が選ばれた。

[個人得点] 中山：10点、吉岡：9点、並木：6点、浜・金城：3点、行本：1点

第15回 男子ジュニアアジア選手権

15th Asian Men's Junior Handball Championship

大会期間：2016年7月22日(金)－8月1日(月)
開催都市：ヨルダン・アンマン

最終順位

優勝：カタール
2位：サウジアラビア
3位：韓国
4位：日本
5位：イラク
6位：バーレーン
7位：イラン
8位：ヨルダン
9位：ウズベキスタン
10位：中国
11位：インド
12位：パレスチナ

■選手団名簿

役職	名前	所属	
団長	田口　隆	(公財)日本ハンドボール協会	
監督	佐藤壮一郎	(公財)日本ハンドボール協会	大同大学
コーチ	吉村　晃	(公財)日本ハンドボール協会	豊田合成
GKコーチ	寺脇　将	(公財)日本ハンドボール協会	愛知商業高校
トレーナー	山木俊彦	(公財)日本ハンドボール協会	日本体育大学
ドクター	有田　忍	(公財)日本ハンドボール協会	小波瀬病院
情報分析	佐藤奏吉	(公財)日本ハンドボール協会	

背番号	名前	所属	出身校
1	袰屋竜流	国士館大学	不来方高校
2	藤村勇希	中部大学	春日丘高校
3	園田涼太	筑波大学	法政二高校
4	康本侃司	日本体育大学	藤代紫水高校
5	田里亮稀	国士館大学	興南高校
6	小澤　基	日本大学	函館有斗高校
7	伊舎堂博武	早稲田大学	興南高校
8	原田竜汰	大同大学	瓊浦高校
9	大谷由岐也	日本体育大学	北陸高校
10	三重樹弥	大同大学	瓊浦高校
11	安平拓馬	日本体育大学	氷見高校
12	羽諸大雅	早稲田大学	市川高校
13	牧野イサム	筑波大学	松陰高校
14	北詰明未	中央大学	昭和学院高校
15	山田信也	明治大学	愛知高校
16	前原大輝	明治大学	横浜創学館高校
17	川上勝太	日本体育大学	興南高校
18	中田湊河	日本体育大学	高岡向陵高校

第15回男子ジュニアアジア選手権に参加して

キャプテン　康本 侃司

初めに7月22日～8月1日に行われたジュニアアジア選手権に参加するにあたり、多大なるご支援とご声援、強化合宿ならびにトレーニングマッチを引き受けて下さいました各実業団の皆様、大同大学の選手の皆様に感謝申し上げます。

アジアチャンピオンという目標を掲げ、5月から3回の強化合宿を実施し臨んだ今大会。アジアを勝ち抜くために、U-19世界選手権の時から課題であったフィジカル面の強化では、山木トレーナーの指示のもと、体幹や腕立てを各大学に戻っても動画を撮って投稿をするなど互いを刺激し合いながらトレーニングを続けたり、練習の最後にラントレを入れることで60分間走り続けられるようにトレーニングしました。また、DFでは6-0、5-1、3-3と様々な戦術を準備し、OFでも自分達の持ち味であるスピードを生かして、広げてDFの間に強い一対一という戦術を徹底的に練習して大会へ乗り込みました。しかし、結果は4位となり世界選手権へ出場することができず納得のいかない結果で終わることとなりました。

カタールにはアジアチャンピオンとの差、サウジアラビアには一点の重みを再確認させられました。宿敵・韓国に対しては、国としての意地というものを思い知らされたように感じます。どの試合も大事な局面でのノーマークシュートミス、焦りからのパスミス、キャッチミスにより、相手を勢いづかせ負けてしまったと思います。また、DFにおいてもフィジカルの強さで押しこまれてしまい、守ることのできなかったケースも多々あったことも今大会で反省しなくてはいけない部分であったと感じます。

今大会の敗北に大きな価値があったことを証明するためにも、世界選手権に出場することができないアジア4位であるという事実を受け止め、2年後の世界学生に向けてフィジカル強化、利き手側に対する1：1、シュート決定率を上げていく必要があると感じます。ここからが自分達の正念場であり、一人一人が強くなるチャンスと捉えて頑張っていきます。

2020年東京オリンピックに向けて、ジュニア世代の自分達が活躍して盛り上げていきたいと思っています。また、ハンドボールのメジャー化を目指しこれからも努力し続けます。

第15回男子ジュニアアジア選手権を終えて

U-21監督　佐藤 壮一郎

1．はじめに

先ずもって、２年前30年振りに勝ち取った、世界選手権の出場を途絶えさせてしまったことに対し深くお詫び申し上げます。2020年の東京OPに向けて、強化の妨げになってしまい申し訳なく思っております。また、大会参加に伴い、選手やスタッフを派遣して下さった所属チーム、ご父母の皆様、強化のサポートをして下さった実業団チームの皆様に心よりお礼申し上げます。

下記に大会までの取り組みと結果、今後の課題について、ご報告させて頂きます。

2．大会に向けての準備

（1）強化骨子：課題克服・知識創造型チームを目指し、強化して行く。具体的には、過去の大会や練習試合の結果を現状把握（成果と課題）として、成果については継続。課題に対しては原因究明、対策を立案し、実行していき、課題の克服を目指す。また、知識創造については、チーム（スタッフ・選手）の役割を明確にし、責任と権限を持たせることでアイディアの抽出共有を図っていき、自立したタフな選手の育成を目指していく。

（2）目的：ハンドボールのメジャー化→東京OP世代育成→ジュニア世界選手権出場

（3）目標：アジアチャンピオン（世界選手権出場）

（4）テーマ：ストロングハンドボール（長所を最大限に生かす）

（5）強化合宿日程

回数	期間	場所	重点強化ポイント	評価
第１回	2016年5月24日～29日	ANTC	フィジカル強化・利手側１対１	4
第２回	2016年6月10日～14日	大崎電気	フィジカル強化・オルテイガ6：0DF習得	4
第３回	2017年7月12日～18日	大同大学	連戦対応・ゲームプランの構築	3

（6）具体的取り組みと評価

取り組み	評価
【フィジカル面】	
①パワー・スタミナ対策（大型PP・BP、クイックスタート、連戦）・更なる個の強さ：コンタクトや身体の使い方	4
②怪我をしない身体づくり（柔軟性の向上、食事の栄養管理、クールダウンの徹底）	4
【技術・戦術面】	
①OF・DFバランスのとれた選手の育成とライン際のシュートが増えるグループ戦術を充実させる。	3
②日本人のクイックネスを最大限に生かすため、二次速攻による得点力アップを図る。	3
③強固なDF・GKに対しての組織的なOFからの個の強さ（プレス攻略）	3
④シュートを簡単に打たせないDF力の向上、打たれても打開できるGKの養成。	2
⑤ゲーム中の対応力、DF・GKは、同じことをやられない。OFは、決まったプレーを継続する強かさ	3
⑥大型DF・GK対策（ドリブル突破・ステップシュート～の変化・ステップフェイント、ワンマン速攻	3
⑦股下顔横シュート・速攻スカイ・攻め倦んだときの打開策・DF 1対1（フェイント・ポスト守り）	3
⑧GK：サイドシュートのキーピング・7mTコンテストの準備	3
【メンタル面】	
①国際試合を数多く、経験させる必要がある。特に開幕戦と勝負の掛かったゲームの準備	2
②練習中から研ぎ澄まされた集中力を磨いていく、全力・元気・集中	3
③モチベーションの持続や何事がおきても動じないメンタリティー、接戦での平常心が必要	3

3．成果と課題

（1）定量

＊日本数値6試合の平均（パレスチナ除）、他国はvs日本数値

	S到達率	A成功率	M発生率	GK阻止率	S成功率	DS	SS	BT	PS	FB
日本	68%	50%	28%	25%	59%	7	4	7	2	7
パレスチナ	43%	23%	48%	4%	44%	6	2	4	3	0
サウジアラビア	70%	55%	21%	23%	70%	5	3	10	6	2
韓国	78%	55%	13%	25%	65%	9	0	8	3	7
イラク	66%	45%	26%	32%	64%	8	3	5	7	1
イラン	67%	50%	22%	25%	64%	10	2	6	3	5
カタール	67%	51%	21%	29%	67%	11	2	7	4	2
韓国	79%	59%	16%	20%	69%	15	2	6	2	5

（2）定性

対戦国	成果	課題	原因	対策
パレスチナ	後半の対応力	開幕戦、スタートの悪さ	国際・試合不足	1・2年試合増、国際大会出場
サウジアラビア	スタートダッシュ成功	同じ選手に失点した、5：1攻略	1：1、2：2に負けた	利き手側とポスト外し練習NTS
韓国	マークミスを起こさせた	同じ選手に真ん中から失点	フットワーク力がない	大型選手の1：1強化
イラク	得点源をマークできた	後半マークが甘くなった	集中力	練習の精度をあげる
イラン	機動力を生かせた	後半の集中力	得失点差の意識	攻め続ける意識
カタール	大型DFにDSが入った	後半攻めてがなくなった	広げられない	戦術の徹底
韓国	シンプルに突破できた	同じ選手に真ん中から失点	戦術変更できない	1：1が弱いから間を割られる

4．まとめ

最後になりますが、結果を出せなかった身で恐縮では、ございますが、今後の強化の提言をさせて頂きます。各国代表は、ジュニアの活動が終了後、次の活躍の場は、フル代表になる程、重要なカテゴリーとなります。日本国内では、活動資金や大学大会日程、授業などの問題で大事な時期に将来を見据えた強化ができていないのが、現状です。そこで、先ずは、各チームでできることから、始めて頂ければ、幸いです。

①身体作り、身長－100（体脂肪10％以下）に体重を増やしましょう。（毎月0.5㎏upで2年間で12㎏up）

②1対1の強化、特にOFの利き手側だけでも接触し、守れるようになりましょう。

③イージミスの軽減、動きながら前を狙った状態でスピードパスをできるようにしましょう。

今大会は、代表のコーチをジュニアスタッフに配置し、代表と同じ戦術を用いて戦いました。日本強化の方向性は、間違っていないと思いますので、継続して取り組んで行くことが重要であると考えます。今後、代表の監督に成り得る将来有望なスタッフを人選し、ジュニアカテゴリーに配置することが重要になると察し、ご提言をさせていただきます。

帯同報告

情報分析　佐藤 奏吉

このたび、ジュニア男子日本代表チームの一員として、アジア選手権に帯同させて頂いたことに感謝を申し上げますとともに、大会の報告を申し上げます。

今回の戦いは、前回大会に続く世界選手権に出場することを目標にチーム作りを進めてきました。その中で分析スタッフは、チームの攻撃・防御の戦術、約束事をそれぞれの選手が理解し習熟させることをテーマとして、①ゲームの撮影②ミーティング資料の作成③対戦国のスカウティング④モチベーションビデオの作成⑤ゲーム時にハーフタイムでのデータ還元、の主に5つの活動を行いました。国内合宿から大会を通してトレーニング、ゲームを撮影し、映像資料を作成してフィードバックさせること、対戦相手の攻撃・防御の戦術をまとめた資料を作成し、ゲームに備えてきました。

大会が開幕し、グループリーグではパレスチナに勝利し、サウジアラビアに逆転負けを許し、1勝1敗でグループリーグ2位での通過となりました。メインラウンドでは韓国に敗れ、イラクに勝利し、イランと引き分けたことにより、1勝1敗1引き分けで準決勝に進出しました。準決勝ではカタールに、3位決定戦では再び韓国に敗れ、世界選手権の出場権を逃すこととなりました。しかしながら、選手にとって非常に貴重な試合経験になったことは間違いありません。分析スタッフとしても、アジア諸国の情報収集において重要な大会となりました。

また、敗れはしたものの相手に対して準備してきた戦術が有効だったと感じることが多くありました。準優勝したサウジアラビアに優位なゲームを展開できたこと、優勝したカタールに対してあと一歩に迫る戦いができたこと、同時にその1点をひっくり返す困難さと、個人の体力や技術など自分達に足りないものを選手・スタッフ共々痛感致しました。

戦評

■予選ラウンド第1戦

日本　49（23－10・26－5）15　パレスチナ

初戦はパレスチナとの一戦であった。立ち上がりはパレスチナのパス回しに合わせるDFとなってしまい、アグレッシブに接触する日本のスタイルでボールを奪うことができなかった。中盤に、牧野から伊舎堂へのスカイプレーで得点をあげ、徐々にペースを上げ、前半を23対10で折り返した。

後半に入ると、日本は足がよく動くようになり、DFからの速攻が冴え大量得点を重ねた。スターティングメンバーだけではなく、交代して出場したメンバーも持ち味を出すことができ、49対15で初戦を飾った。

［得点］牧野8点、小澤･伊舎堂5点、園田･康本･三重4点、田里･北詰・中田3点、原田・大谷・安平・山田・川上2点

■予選ラウンド第2戦

日本　23（13－10・10－16）26　サウジアラビア

スターティングメンバーは第一戦と変更なく、LW小澤、LB牧野、CB田里、RB伊舎堂、RW安平、PV山田の布陣で始まった。試合開始早々、サウジアラビアのエース№11にミドルシュートを決められ、先制を許す。しかし、日本は積極的なDFから速攻を仕掛け、山田、三重を中心に連続得点し、8対1とリードを広げた。中盤、サウジアラビアは、№7のカットインで連取し、日本が退場している時間を確実に得点につなげ､3点差まで詰め寄った。その後も、サウジアラビアは7人攻撃を仕掛けるなど、日本のDFを揺さぶるが、日本はGK羽諸のファインセーブもあり、13対10と日本3点リードで前半を終えた。

後半に入ると、前半の流れとは異なり、一進一退の攻防を繰り広げたが、中盤に入りサウジアラビアは7人攻撃で着実に得点し、ついに同点に追いつく。同点に追いつかれたところで、日本はタイムアウトを請求し、流れを変えようと試みる。しかし、ミスからサウジアラビアに得点を許し、ついに逆転されてしまう。その後も、焦りからミスを連続し差を広げられてしまい、23対26で試合終了。この結果、日本は予選ラウンドBグループの2位通過が決まり、メインラウンドではグループ1に入り、韓国、イラク、イランと同組となった。

［得点］牧野6点、伊舎堂・三重・山田4点、小澤・原田2点、安平1点

■メインラウンド第1戦

日本　27（10－12・17－19）31　韓国

スターティングメンバーは予選ラウンド第二戦と同じ、LW小澤、LB牧野、CB田里、RB伊舎堂、RW安平、PV山田の布陣で始まった。日本のスローオフから試合が始まり、伊舎堂のミドルで先制する。韓国は日本のDFを崩してカットインシュートまで持っていくが、GK羽諸のファインセーブにより得点を上げることができない。日本は3対0とリードを広げるが、ここから韓国は№77の個人技で得点を重ね、5対5の同点に追いつく。その後は互いにミスが続き、得点を上げることができない。しかし、韓国№77のミドルで連取を許し、日本は10対12の2点差で前半を折り返した。

後半開始直後、10対14と点差を広げられたが、DFから速攻につなげて4連取し同点に追いつく。しかし、ここから韓国が着実に得点していくのに対し、日本はミスを連発、16対19と点差が開いてしまう。日本は同点に追いつくために、DFシステムを変えたり、7人攻撃を仕掛けたりと策を講じるが、なかなか点差を縮めることができない。終盤、20対27と7点差をつけられてしまう。最後まで諦めず走り続け、伊舎堂、三重が得点を挙げて粘るが、27対31で試合を終えた。

［得点］伊舎堂8点、三重6点、牧野5点、田里3点、原田2点、北詰・山田・中田1点

■メインラウンド第2戦

日本　30（15－11・15－13）24　イラク

日本のスローオフで試合は始まり、牧野のミドルで先制するが、イラク№11の多彩なプレーで逆転を許してしまう。その後は一進一退の攻防を繰り広げるが、イラクのミスを速攻につなげた日本は、山田、牧野、北詰で3連取し一歩抜け出す。前半終了間際に

も牧野のカットイン、伊舎堂のミドルで加点し、15対11と4点リードして前半を終えた。

後半に入っても日本の勢いは止まらず、積極的なDFからイラクのミスを誘い、3連取するなどリードを広げる。中盤に入るとイラクはNo.11の個人技、日本は原田と牧野のクロスからのミドル、三重から山田へのDFの股下を通すポストへのパスなどのコンビプレーで得点を奪い合う展開となる。27対18と日本がリードした状態で残り10分を迎えたが、そこからイラクGKのファインセーブにより点差を広げることができないが、最後までDFの足を止めずに守り続け、最後は牧野、北詰で2連取し、30対24で勝利を収めた。

DFでは園田が積極的に接触し、OFでは藤村が体を生かしたプレーでイラクの退場を誘うなど、途中出場した選手が気持ちの入った強気のプレーを見せてチームに勢いをもたらした。次戦のイラン戦に勝てばメインラウンドのグループ2位以内が確定し、準決勝進出を果たす。今日の試合の勢いを次戦につなげていきたい。

［得点］ 牧野6点、伊舎堂5点、原田4点、三重・山田3点、藤村・北詰・中田2点、康本・田里・小澤1点

■メインラウンド第3戦

日本　30（16－10・14－20）30　イラン

スターティングメンバーは、LW小澤、LB牧野、CB田里、RB伊舎堂、RW三重、PV山田の布陣で、日本のスローオフから始まった。日本は伊舎堂の7mTで先制するが、イランの長身エースNo.14にステップシュートを決められ、すぐさま同点に追いつかれる。中盤に入り、日本は機動力を生かしたDFが機能し始め、イランのミスを速攻につなぎ5連取する。その後もGK羽諸を中心によく守り、前半を16対10の6点差で終えた。

日本は、前半終了間際に2人退場してしまい、後半はCP4人でのスタートとなったが、その時間帯をなんとか1失点でしのぐ。その後イランは体格を生かし、日本のDF陣に接触されながらもNo.14、No.20が力強いミドルを打ち込み、徐々に点差を詰めてくる。残り10分、24対21となったところで、イランはダブルマンツーマンDFを仕掛け、日本にプレッシャーをかけてくる。日本は、伊舎堂、三重でなんとか得点するが、さらにイランはトリプルマンツーマンDFを仕掛ける。終盤、日本は焦りからミスを連発してしまい、ついに同点に追いつかれる。イランは残り30秒を切ったところでタイムアウトを請求し、7人攻撃を仕掛けるが、日本は最後の力を振り絞って守りきり、30対30の同点で試合を終えた。この結果、日本は1勝1分1敗でグループ2位が確定、カタールとの準決勝に臨む。

［得点］ 田里・伊舎堂6点、三重・牧野5点、小澤4点、藤村・原田2点

■準決勝

日本　25（13－15・12－14）29　カタール

スターティングメンバーは前戦と代わらず、LW小澤、LB牧野、CB田里、RB伊舎堂、RW三重、PV山田の布陣で始まった。牧野のミドルで先制するが、カタールにポストから決められ、すぐさま同点に追いつかれる。その後、日本は伊舎堂、牧野を中心に得点するが、カタールは速攻からサイドとポストの連携などで日本のマークミスを誘い、一進一退の攻防が続いた。日本は、カタールのエースNo.19とPVを必死に守りにいくが、DFの間を狙われ5連取を許してしまう。しかし、終盤に田里が連続得点を挙げ、13対15の2点差で前半を終える。

後半に入り、三重のサイドで先手を取るが、カタールNo.19にDF陣の上から打ち込まれ、連続得点を許してしまう。その後、日本は焦りからミスを連発、5失点してしまう。日本は流れを変えようと選手交代を行い、途中出場の北詰がミドルを打ち込むなど追い上げをはかるが、カタールは最後まで落ち着いて試合を運び、25対29で試合を終えた。

日本は決勝進出を逃したが、明後日の三位決定戦にまわり、宿敵・韓国と対戦する。韓国に勝つと、世界選手権の出場権を獲得することができるため、是が非でも勝ちたい。

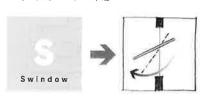
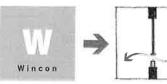
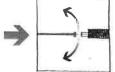
［得点］ 田里・牧野6点、三重・北詰4点、伊舎堂3点、原田・園田1点

■3位決定戦

日本　29（14－15・15－18）33　韓国

スターティングメンバーは前戦と代わらず、LW小澤、LB牧野、CB田里、RB伊舎堂、RW三重、PV山田の布陣、日本のスローオフで試合は始まった。日本は、牧野のミドルで先制するが、すぐさま韓国にサイドトランジションからポストを使われ同点に追いつかれる。中盤までは交互に得点を取りあう一進一退の攻防が続くが、小澤、藤村の連続得点で日本が10対8と一歩リードする。すると韓国は、DFシステムを4－2DFに切り替え、日本のOFリズムを崩しにかかる。韓国はOFでも日本のDF陣に接触されながらもプレーを継続し、No.77、No.17を中心に得点を重ね、逆転に成功する。日本は、14対15の1点ビハインドで前半を終える。

後半に入り、日本はすぐさま同点に追いつく。しかし、その後は韓国のDFを崩してシュートを放つものの、それがことごとくクロスバーに嫌われてしまう。その間に、韓国はNo.77、No.17が着実に得点を重ねていく。日本は三重、田里、牧野の速攻で必死に追い上げるが、時間が足りず、29対33で試合を終えた。

［得点］ 三重・牧野6点、小澤5点、田里4点、伊舎堂3点、藤村・原田2点、川上1点

第21回 ヒロシマ国際ハンドボール大会

開催期日：平成28年7月22日(金)～24日(日)
会　場：マエダハウジング東区スポーツセンター

最終順位

《女子》
優勝：日本代表
2位：江蘇省（中国）
3位：SKオーフス（デンマーク）
4位：広島メイプルレッズ

《男子》
優勝：日本代表
2位：湧永製薬
3位：江蘇省（中国）

第21回ヒロシマ国際ハンドボール大会を終えて

女子日本代表キャプテン　原　希美

ヒロシマ国際大会を終え、チームとしての課題がたくさん見つかり、また、私自身がナショナルプレイヤーとしての自覚や責任が全然足りていない、と強く感じました。今大会初戦の広島メイプルレッズとの対戦では、攻守においてミスが多く、チームが結成されて間もないとは言え、ナショナルプレイヤーとして情けない試合をしてしまいました。休みなく試合が行われることより、気持ちの切り換えやミーティングも行い、中国、SKオーフスとの試合ではミスを減少させることはできたものの、納得のいく内容ではなかったと感じています。

しかし事前合宿で取り組んできた速攻やクイックスタートなど、ウルリック監督が重要視していることへの方向性について収穫を得ることができました。これから2019年熊本世界選手権、2020年東京五輪で結果を残すためにたくさんの経験を積みながら、個々、チームともに成長していきたいと思います。

続いて開催された北信越サーキットでは、ヒロシマ国際大会に参加していた北國銀行のメンバー（5名）が抜け、本来のポジションとは異なる体制での取り組みとなりました。そのため大変な部分もたくさんありましたが、その中でも選手同士や監督とコミュニケーションを取りながら、1プレイ1プレイ今できることをしっかりとできたと思います。しかし、ヒロシマ国際大会と同様にミスもたくさんあり、課題や修正すべきところがたくさん見つかりました。今回のサーキットに参加するにあたり、石川県や福井県の皆さんにはたくさんのご支援を頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

【選手団名簿】

■女子

	名前	所属	
監督	ウルリック　キルケリー	(公財)日本ハンドボール協会	
GKコーチ	北野香代	(公財)日本ハンドボール協会	六角橋中学
トレーナー	高野内俊也	(公財)日本ハンドボール協会	日本予防医学協会
トレーナー	内田春菜	(公財)日本ハンドボール協会	山中接骨院
分析	嘉数陽介	(公財)日本ハンドボール協会	
通訳	高橋豊樹	(公財)日本ハンドボール協会	
総務・広報	長谷川千紗	(公財)日本ハンドボール協会	青山学院初等部

背番号	名前	所属	出身校
2	安倍千夏	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング	筑波大学
3	藤田明日香	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング	四天王寺高校
8	永田美香	北國銀行	四天王寺高校
12	網谷涼子	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング	筑波大学
13	勝連智恵	オムロン	宣真高校
14	横嶋　彩	北國銀行	環太平洋大学
16	白石さと	オムロン	東京女子体育大学
18	田邉夕貴	日本ハンドボール協会	大阪体育大学
19	池原綾香	三重バイオレットアイリス	日本体育大学
21	相澤莉乃	オムロン	東海大学
24	原　希美	三重バイオレットアイリス	日本体育大学
26	川村杏奈	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング	東海大学
27	塩田沙代	北國銀行	高松商業高校
28	永田しおり	オムロン	福岡女子商業高校
31	多田仁美	三重バイオレットアイリス	日本体育大学
32	田中　茜	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	東京女子体育大学
33	角南果帆	三重バイオレットアイリス	大阪体育大学
34	吉田起子	オムロン	東京女子体育大学
35	大山真奈	北國銀行	大阪体育大学
36	山根エレナ	三重バイオレットアイリス	日本体育大学

■男子

	名前	所属	
監督	カルロス　オルテガ	(公財)日本ハンドボール協会	
コーチ	ネメシュ　ローランド	(公財)日本ハンドボール協会	筑波大学
GKコーチ	北林健治	(公財)日本ハンドボール協会	都城工業高校
トレーナー	寺尾邦仁	(公財)日本ハンドボール協会	永井接骨院
分析	市村志朗	(公財)日本ハンドボール協会	東京理科大学
分析	永野翔太	(公財)日本ハンドボール協会	筑波大学
統括	田中　茂	(公財)日本ハンドボール協会	

背番号	名前	所属	出身校
5	高智海吏	トヨタ車体	大阪体育大学
6	加藤嵩士	大同特殊鋼	愛知大学
8	渡部　仁	トヨタ車体	日本大学
10	小室大地	大崎電気	日本体育大学
12	木村昌丈	大崎電気	日本体育大学
17	植垣健人	大崎電気	大阪体育大学
19	徳田新之介	筑波大学	岩国工業高校
20	酒井翔一朗	トヨタ紡織九州	大阪経済大学
21	甲斐昭人	トヨタ車体	日本体育大学
23	小塩豪紀	豊田合成	中京大学
24	信太弘樹	大崎電気	日本体育大学
25	元木博紀	大崎電気	日本体育大学
26	久保侑生	大同特殊鋼	筑波大学
29	東江雄斗	大同特殊鋼	早稲田大学
30	成田幸平	湧永製薬	大阪体育大学
31	銘苅　淳	日本協会	筑波大学
32	土井レイミ杏利	Chambery(FRA)	日本体育大学
33	志水孝行	湧永製薬	大阪体育大学
34	時村浩幹	大崎電気	大阪体育大学
35	藤本純季	トヨタ車体	早稲田大学
36	出村直嗣	豊田合成	筑波大学

戦評

女子

■7月22日（金）

日本代表　21（6－10,15－15）25　広島メイプルレッズ

監督に新たにウルリック＝キルケリー氏を迎えた日本代表と地元開催の広島メイプルレッズの一戦。メイプルが3連続得点を決めるも、すぐさま日本代表も得点を重ね、前半15分過ぎには5対5の状況に持ち込む。中盤から日本代表は7人攻撃を仕掛けるなど攻撃バリエーションを増やすも、ディフェンスの間を攻めきれずシュートを打ち切ることができない。結果的にボールを奪われてしまう展開が続くも、キーパーの好セーブもあり、なんとか前半を6対10の4点ビハインドで折り返した。

後半、開始5分の内に日本代表は2点差に詰め寄る。さらにプレッシャーを掛けようと高めの変則ディフェンスを仕掛けるもマークやパスのミスにより失点、後半15分頃に再度4点ビハインドとなる。逃げるメイプルは素早攻守の切り替えでボールを運び、得点を重ね、点差を維持した。終盤後半24分頃、メイプルが退場者を出した機に日本代表が流れを掴むかと思われたが、ステップシュートなどでメイプルの連続得点が決まり6点のリードで流れを渡さなかった。最終的に21対25でメイプルが勝利を収めた。

■7月23日（土）

日本代表　29（11－9,18－12）21　江蘇省

この試合は江蘇省のスローオフから始まった。先制したのは江蘇省、開始後すぐに得点したが、その後はお互いが探りあう展開。前半15分に4対4と緊迫した展開となる。その後は一進一退の展開、日本代表はサイドを使って得点を重ね、網谷の好守により追撃を許さない、日本代表は前半25分7人攻撃を仕掛け、前半を11対9、日本代表の2点リードで折り返した。

後半、日本代表チームは退場者を出すものの、キーパーと交代し、攻撃の数を変えず人数の少なさをカバーし得点を重ねる。江蘇省のシュートを山根が好セーブし相手の得点を許さない。後半10分で17対13と得点差を広げていく。日本代表大山の出場により、一段と速くなった展開に、江蘇省の守りが少しずつ遅れるようになり、後半20分には23対16とさらにリードを広げる。終了間際日本代表はさらに7人攻撃を仕掛け、29対21と突き放し、日本代表が勝利した。

■7月24日（日）

日本代表　31（15－12,16－14）26　SKオーフス

SKオーフスのスローオフで始まったこの試合、コートを広く使った素早い攻撃から日本代表横嶋の得点で先制する。試合開始直後からSKオーフスはキーパーとコートプレイヤーを交代し、7人攻撃を見せるも、日本代表の堅い守りに阻まれ、前半10分で8対3と日本代表が大きくリードする。しかし、ここからSKオーフスは高さを活かした力のある攻撃で、前半15分に8対7まで点差を縮める。ここから日本代表の素早いフットワークとSKオーフスの体格を活かしたディフェンスがともに機能し、一進一退の攻防を続け、前半を15対12の日本代表リードで終えた。

後半開始早々、お互いに速攻を主体とした攻撃で得点を重ねる。SKオーフスは身長192㎝左利きのトランボーのロングシュートで得点を重ね、一方日本代表もポストを絡めた堅実な攻撃で追撃を許さない。後半20分が経過しても26対23と点差の変わらない展開が続いていたが、日本代表山根の好セーブにより徐々に点差を広げていく。SKオーフスは終盤再び7人攻撃を仕掛けるも及ばず、最終的に31対26で日本代表が勝利した。

男子

■7月23日（土）

日本代表　32（19－16,13－11）27　湧永製薬

この試合は湧永製薬のスローオフから始まった。日本代表はお互いを鼓舞するように声を出し、会場の雰囲気を作る。オープニングゴールは湧永製薬佐藤のステップシュート。湧永製薬がいい流れを作ろうとするも、日本代表は運動量豊富なディフェンスで簡単にはシュートを打たせない。また、丁寧なディフェンスの後、着実に得点を重ね前半15分に7対12とする。湧永製薬は、相手のミスを見逃さず、素早い攻防の切り替えで前半20分には8対10と点差を詰める。前半終了間際には、前半は16対19、日本代表の3点リードで折り返した。
後半序盤、一進一退の展開となるが、後半の10分まで20対23と日本代表は3点差のリードを保つ。日本代表はポストを軸とした攻撃を展開し、後半20分には22対27と5点差まで広げる。後半終了間際、湧永製薬は7人攻撃にチャレンジし得点するも、最後まで点差を詰められず､27対32日本代表の勝利で試合を終了した。

■7月24日（日）

日本代表　39（19－7,20－7）14　江蘇省

試合は1分過ぎ、日本の時村のミドルシュートで動き始めた。続いて時村が7mTを落ち着いて決め試合を優位に進める。日本はその後も攻撃の手を緩めることなく、ポストの中継からサイドへずらしそのパスを確実に元木や土井が決め13分過ぎには6対2とリードを広げた。江蘇省もたまらずタイムを取り、流れを変えようとするが、日本の速いディフェンスチェックに阻まれ中々確実なシュートチャンスがつかめない。日本はその後もメンバーを入れ替えながら多彩な攻撃を仕掛け、信太、小塩、徳田らの息の合ったコンビプレーが次々に決まり試合の大勢を前半で決めた。江蘇省は散発的にポストシュートが決まるものの日本のラインコントロールされたディフェンスを崩すことができず前半で19対7の12点差をつけられた。

後半も試合の流れは変わらず、日本は堅いディフェンスから次々と速攻を決めて点差を広げるとともに、キーパー木村のナイスセービングで失点を最小限に抑え、39対14の大差で勝利を収め、2戦全勝で優勝を飾った。

高松宮記念杯　平成28年度全国高等学校総合体育大会
第67回全日本高等学校
ハンドボール選手権大会
男子：県立岩国工業高校は
4年ぶり2回目の優勝！
女子：県立水海道第二高校は
46年ぶり3回目の優勝！
最終順位
■男子
優　勝：県立岩国工業高等学校（山口県）
準優勝：大分高等学校（大分県）
3　位：大阪体育大学浪商高等学校（大阪府）
府立洛北高等学校（京都府）
■女子
優　勝：県立水海道第二高等学校（茨城県）
準優勝：明光学園高等学校（福岡県）
3　位：四天王寺高等学校（大阪府）
県立高松商業高等学校（香川県）

今大会優秀選手

【男子】
栗栖昇己（岩国工）
徳田廉之介（岩国工）
助安大成（岩国工）
田中夏輝（岩国工）
本田悠也（大分）
山田翔騎（大分）
向井京馬（大分）
小松優大（洛北）
西口空知（洛北）
松下　海（大体大浪商）
阿南遼星（大体大浪商）
村井達也（高岡向陵）
服部將成（中部大学春日丘）
福本吉伸（北陸）
山口広輝（瓊浦）

【女子】
相澤菜月（水海道第二）
齊藤詩織（水海道第二）
滝川莉奈（水海道第二）
宝田希緒（水海道第二）
安田七海（明光学園）
藤田遥香（明光学園）
尾辻素乃子（明光学園）
中條希春（高松商業）
内堀杏美（高松商業）
西村美桜里（四天王寺）
川上真愛（四天王寺）
伊地知愛妃（鹿児島南）
辛島美奈（高水）
金城ありさ（佼成女子）
田島夕衣里（大分）

「第67回全日本高等学校ハンドボール選手権大会」を振り返って

高校総体実行委員会事務局　水津 研二

はじめに、平成28年熊本地震において犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げ、被災地の一日も早い復興を祈念いたします。

～美しく咲け　君の笑顔と努力の華～の大会スローガンのもと、平成28年8月1日に下松市のスターピア下松で開会式が行われ、翌2日から7日までの6日間、周南市、下松市、光市の各会場で、全国大会の切符を手にした高校生ハンドボーラーが熱い戦いを繰り広げました。

実行委員会事務局における私の役割は、準備段階においては競技運営役員・補助員の依頼、業務の割り当て、勤務表の作成が主なものでした。ハンドボール関係者はもとより一般の教員・生徒の皆さんにも幅広く協力していただいたことを、心より感謝しています。ただ、連絡方法としてメールに頼りがちとなり、直接お顔を拝見することなく数々のご要望をお願いするなど、失礼のあったことをこの場を借りてお詫び申し上げます。

また、大会期間中は式典における選手、補助員の事前指導を担当させていただきました。開会式では自分の見通しの甘さもあり、選手・補助員のリハーサルの時間が十分に確保できず、冷や汗もので式の進行を見ていましたが、優勝杯・優勝旗の返還、選手宣誓における選手の皆さんの堂々たる振る舞いを目の当たりにして、ここ一番での集中力の高さはさすがだと改めて感心させられました。これはまた、チームを率いる先生方の日頃のご指導の賜物でもあると、頭の下がる思いがしました。

翌日からは上記の3市4会場において、高校日本一の座を目指して熱戦が繰り広げられました。周南市鹿野総合体育館では、地元の高校生有志による応援があり、多くのチーム関係者からご好評をいただきました。（スポーツイベント社のブログでも取り上げていただいていますので、興味を持たれた方は是非ご覧ください。）光市総合体育館では、地元高校の野球部員をはじめ多くの補助員が、明るい笑顔と挨拶で各チームを迎えてくれました。今大会では光市総合体育館のみならず各会場で、他競技の運動部員や文化部の皆さんが運営面を中心に活躍してくれました。夏季休業中の貴重な練習時間を割いて協力してくださった皆さんに心より感謝いたします。

私自身、今大会には実行委員としての役職と並行して、審判員としても参加させていただきました。二足のわらじを履きこなすには気持ちの切り替えが大切であると、自分に言い聞かせて大会に臨みましたが、結果的に自分の未熟さを思い知らされ、反省させられることも多々ありました。それでも本当に貴重な体験をさせていただいたことをありがたく思うと同時に、この経験を必ず今後に活かしていきたいと思っています。

審判員としての職務は準々決勝の笛で終了となりましたが、引き続き閉会式の運営全般を任されることとなりました。開会式に続き自分の経験・認識不足のため非常に不安な役回りとなりましたが、準決勝終了後のアリーナで、式の会場配置の確認や補助員のリハーサルのため、遅くまで残って具体的なアドバイスをしてくださった全国高体連の先生方にはご心配、ご迷惑をお掛けし申し訳ありませんでした。翌日の試合は男女とも、全国の頂点を決定するインターハイの決勝にふさわしい、熱のこもったゲームとなりました。その後の閉会式も多少の手違いはあったものの何とか無事に終了することができました。

以上、総評とは言い難いものとなりましたが、私の体験や感想をもとに今大会を振り返らせていただきました。大会中はプラズマ掲示板の表示が消えてしまったり、予定していたマイクロバスが到着しなかったりと、少なからずトラブルが発生しましたが、そのたびに皆様のご協力と寛大なお気持ちに助けられ、どうにか大会を無事に終了することができたと思っております。

終わりになりますが、全国高体連ハンドボール専門部をはじめ、今大会の開催にあたってご協力いただいた全ての関係の皆様に改めて心より感謝を申し上げ、総評といたします。

男子優勝 県立岩国工業高等学校（山口県）

県立岩国工業高等学校ハンドボール部監督　倉谷 康彦

このたび、地元山口県周南市を中心に開催されました2016「情熱疾走 中国総体」において優勝をすることができました。３月の全国選抜大会に続き「２冠」の達成でした。このような結果を残すことができましたのも、全国高体連・山口県高体連・山口県体育協会の皆様、特に、「お前は、強化に専念しろ。」と専門委員長という立場の私に代わって大会の準備、運営等を全面的に担って頂いた実行委員会の方々には感謝の言葉しかありません。

「地元インターハイでは全く違ったカラーで臨みます。」勢いのまま駆け上がった選抜優勝の直後から、私は敢えてそうコメントするようにし、選手にも意識付けしました。正直、その時点では何の具体案も確信もありませんでした。私の指導歴の中で、選抜を上回る結果を夏に残せたことが一度しかなかったこと、夏の優勝チームの特徴が春とは大きく異なっているように感じたことが、その根拠です。その日から、春のチームへの上積みを狙うのではなく、新しい形のスキル・戦術・戦略を習得するトレーニングと研究を始めました。過去10年間にさかのぼり上位進出校の特徴やエアコンの有無等試合会場とゲーム内容の関係も調査もしました。

春からの４ヶ月間は、瞬く間に過ぎていきました。祝勝会・報告会・入学式・マスコミ取材・各種大会・２度の考査試験・各カテゴリーへの選手派遣。どれも高校生チームとして大切かつ名誉なことで何一つ疎かにしてはいけません。そんな中で、主将栗栖をリーダーとして選手達は「ニュー岩工」へ向けて着々と努力を積み重ねてくれました。途中、５月の中国大会や６月の総体予選では苦戦を強いられ、信念への疑念も芽生えそうになった時期もありました。そんな中、OBや保護者の方々からの激励や大学の指導者の方々からの適切なアドバイスを頂き、軌道修正を繰り返しました。また、絶大なる信頼を寄せる田中フィジカルトレーナーに「夏仕様の体」に仕上げていただき、いよいよ本番を迎えることができました。

春は、先行逃げ切り型のチームでしたが、夏に向けては後半勝負型のチームへと意識付けしモデルチェンジさせました。今大会５試合中３試合が先行されましたが、選手達は慌てることなく実力を発揮してくれたと思います。また、連日、大応援団を結成し声援を送り続けて頂いた学校関係者・全校生徒の皆さんからも「岩工魂」を授かり、勇気と感動をもらいました。あの大声援がなかったら、この優勝は達成できなかったと思います。

中学校にハンドボール部しかなく、嫌々ハンドボールを始めた私です。選手としても活躍することもなく、指導者としても決して勝負運を持っている男ではないと十分自覚しています。選手には厳しく自分には甘い人間です。そんな私ですが、ハンドボールを通してたくさんの先輩・同僚・後輩・選手と巡り合い、仲良くさせて頂いています。自分だけがそう思っているのかもしれませんが、敵を作らず43年間ハンドボールに携わらせていただきました。岩工の監督に就任した当時１歳だった娘も24歳になり中学校教師としてハンドボールの指導をし、今大会の役員で同じコートに立たせていただきました。また、平成９年大阪なみはや国体の決勝を応援に来て負けてしまって以来、岩工の応援が「トラウマ」になっていた妻も今回の優勝を見届けてくれました。「本当に幸せ者だなぁ。」と感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

これからも、日本ハンドボール界の発展のために、微力ながら「倦まず弛まず玲瓏に」生きていきたいと思います。

女子優勝 県立水海道第二高等学校（茨城県）

県立水海道第二高等学校ハンドボール部監督　飯村 裕志

この度は、おかげさまで平成28年度全国高等学校総合体育大会高松宮記念杯第67回全日本高等学校ハンドボール選手権大会におきまして46年ぶり3回目の優勝、3月の全国選抜大会とあわせて春夏連覇を達成させて頂くことができました。山口県の関係者の皆様、日本ハンドボール協会の皆様、日頃よりご支援ご協力いただいております茨城県教育委員会の皆様をはじめ、県体育協会の皆様、県ハンドボール協会の皆様、県高体連の皆様、保護者の皆様、OGの皆様に厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今大会では、「夢の続き」～継続～を再度確認しました。春に続いての優勝を目標に掲げての挑戦、ということでプレッシャーもありましたが、選手達は普段通りの力を出し切ってくれました。そして、新たな課題も見つかりました。精進を怠ることなく、まだ終わらない「夢の続き」を目指したいと思います。

各方面にわたりご協力頂いております皆様方に感謝申し上げ、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い致しまして、挨拶とさせていただきます。

県立水海道第二高等学校ハンドボール部主将　相澤 菜月

はじめに、高松宮記念杯第67回全日本高等学校ハンドボール選手権大会の開催にあたり、多大なるご支援、ご協力を頂きました日本ハンドボール協会、山口県ハンドボール協会、関係者の方々に心より感謝申し上げます。

私たちは「夢の続き」をテーマに選抜大会に挑み初優勝しました。追われる立場ではありましたが新1年生も加わりチームがまたひとつになるチャンスを貰え、「夢の続き」は継続し、優勝に向けて走り始めました。しかし、メンバーが増えるほど大変でまとまらない時も多々ありました。その度に話し合い改善しなければならないところ継続するところを確認し、練習への取り組み方の質を上げようと共通理解を身体に浸み込ませました。試合を重ねるごとにチームもまとまりつつありましたが、チームの反省点が多くあがり苦しい展開となりました。でも、「勝った方が強い。まだ試合はある。他のチームのためにも。」と声をかけながらまた一つチームがまとまり準決勝、決勝と勢いに乗ることが出来ました。全試合を通し持ち味のDFから速攻を武器に46年ぶり3回目の優勝、春夏連覇を成し遂げることが出来たことがとても嬉しく思います。

この大会を通してチームとしても個人としても一層成長でき、色々な経験をさせて頂きました。次は国体に向けて県の代表として三冠目指して取り組んでいきたいと思います。

ありがとうございました。

戦評

男　子

■準決勝

県立岩国工業　34（17-12,17-10）22　大阪体育大学浪商

地元、岩国工業と浪商の準決勝は、岩国工業のスローオフで試合開始。先制点は岩国工業、松ノ木のサイドシュート。その後、両校とも積極的な攻めの姿勢で得点を重ねていく。試合の序盤、岩国工業は巧みなパスワークからのミドルシュートで4連続得点。一方、浪商は高いディフェンスで相手のミスを誘い、ウイング松下の速攻で得点する。試合開始から3点差以上離れないまま、岩国工業リードで前半の終盤に突入。得点したい浪商だが、岩国工業はキャプテン栗栖の2連取で流れを掴むと、ポストシュート、速攻が決まる。前半終盤に点差が広がり、17対12、岩国工業のリードで折り返した。

後半に入り、前半終了時の勢いそのままに、岩国工業の左バック徳田のカットイン、ピボットとの連携プレーで得点。後半の序盤で8点差に広がった。浪商は、キャプテン阿南のポストシュートで得点を重ねるが、高めのディフェンスで広がった間を攻められ、点差を縮められない。両校とも点を取りにいく姿勢を崩さない白熱した試合だった。34対22で岩国工業が決勝戦に駒を進めた。

■準決勝

大分　27（14-12,13-10）22　府立洛北

決勝への切符をかけた準決勝第2試合、洛北対大分の試合は洛北のスローオフで試合開始。前半中盤まで激しい主導権争いの中、取っては取られてのシーソーゲームが続く。18分、大分向井のカットインから2連取。大分が流れを掴みかけると、負けじと洛北も小川のロング、千葉のカットインですぐに追いつく。28分、大分川内が相手の隙をついてパスカットから速攻し1点を取ると、前半終了間際に速攻でもう1点追加し、12対14の2点リードで前半を折り返した。

後半に入っても一進一退の攻防が続くが、6分洛北が1人退場した場面で大分がリードを3点に広げる。この流れにのりたい大分だが洛北GK西口のファインセーブに阻まれる。12分、洛北は坂本、柳の速攻と福田のロングで3連取し、同点まで追いつく。21対24でむかえた26分、不正入場もあり大分がCP 4人という中で追いつきたい洛北だったが、大分GK片山の好セーブに阻まれ、点差を縮めるどころか逆に広げられてしまう。完全に大分に流れが渡ったところで試合終了。22対27で大分が決勝の舞台に駒を進めた。

■決勝

県立岩国工業　29（11-12,18-8）20　大分

会場からの大声援を力に、春夏連覇を狙う地元岩国工対創部6年目での初優勝を狙う大分の試合は岩国工のスローオフで試合開始。序盤から緊迫した雰囲気の中、一進一退の攻防が続く。7mTや速攻で流れにのりたい岩国工だが、大分GK片山の好セーブによりペースをつかめない。一方大分も速攻を仕掛けるが岩国工GK田中の好セーブに阻まれる。両者一歩も譲らない展開の中、7mTを確実に決めきった大分が11対12の1点リードで前半を折り返す。

後半は、序盤から岩国工が試合の主導権を握る。松ノ木の速攻から5連取し一気に流れを掴む。GK田中も好セーブを連発。5点差でむかえた18分、大分の1人退場で岩国工はさらに勢いを増す。エース徳田のシュートを皮切りに3連取し、その差を6点に広げる。対する大分も本田のサイドシュートや山田のカットインで反撃するも一歩及ばず。力の差を見せつけた岩国工が29対20で9回目の全国制覇と春夏連覇を果たし、会場中が感動に包まれた。

女　子

■準決勝

県立水海道第二　22（11-5,11-11）16　四天王寺

準決勝第一試合は、水海道第二のスローオフで試合開始。四天王寺は相手の隙をつくポストシュートで先制するが、水海道第二も素早いパス回しからのミドルシュートですぐに点を取り返す。試合開始から一進一退の攻防が続くが、水海道第二はキャプテン相澤を中心とした攻撃から、ロングシュート、ポストシュートで5点差まで広げた。四天王寺は右ウイング高橋のサイドシュートで1点返すも、やや下がり気味のディフェンスの上から鋭いシュートで得点される。水海道第二はそのまま

戦評

試合の流れを掴むと、4連続得点。さらに点差を広げた。四天王寺は7mTのチャンスからの得点、GKの好セーブで踏み留まり、11対5で前半を折り返す。

後半に入り四天王寺はピボットを中心とした攻めが決まり、いい立ち上がりを見せる。水海道第二は3点差まで詰め寄られ、2人の退場者を出すも、GK宝田のセーブで試合の流れを渡さない。四天王寺は持ち前の速い速攻で得点をあげるが、相手の力強い攻めから得点される。高い得点力が目立った水海道第二が22対16で勝利した。

■準決勝

明光学園　25（14-12,11-10）22　県立高松商業

地元高水に勝利し勢いにのる明光対接戦を着実に勝ち抜いてきた実力校高松商の試合は高松商のスローオフで試合開始。前半序盤は一進一退の攻防が続いたが､先に抜け出したのは明光。安田のカットインなどで3連続得点する。しかし、高松商もピボットを使った攻撃で点差を広げさせない。ここからまた明光は安田、藤田を中心に、高松商は中條を中心に点の取り合いが続く。両者、1歩も譲らない試合展開の中、14対12明光のリードで前半を折り返した。

後半、ディフェンスラインを下げた明光に対し、高松商中條がロングシュートで2連取。それに負けじと明光尾辻もカットインとロングで2連取し、緊迫した試合展開が続く。追いつきたい高松商だが、速攻でのミスもあり、なかなかリードすることができない。一方、明光も点差をつけることができないまま1点差明光リードで試合終盤に突入。23分、明光藤田のロングシュートが決まるとGK木戸も好セーブをし、流れを高松商に渡さない。最後まで粘りをみせる高松商に対し、そのままリードを守りきった明光が25対22で勝利した。

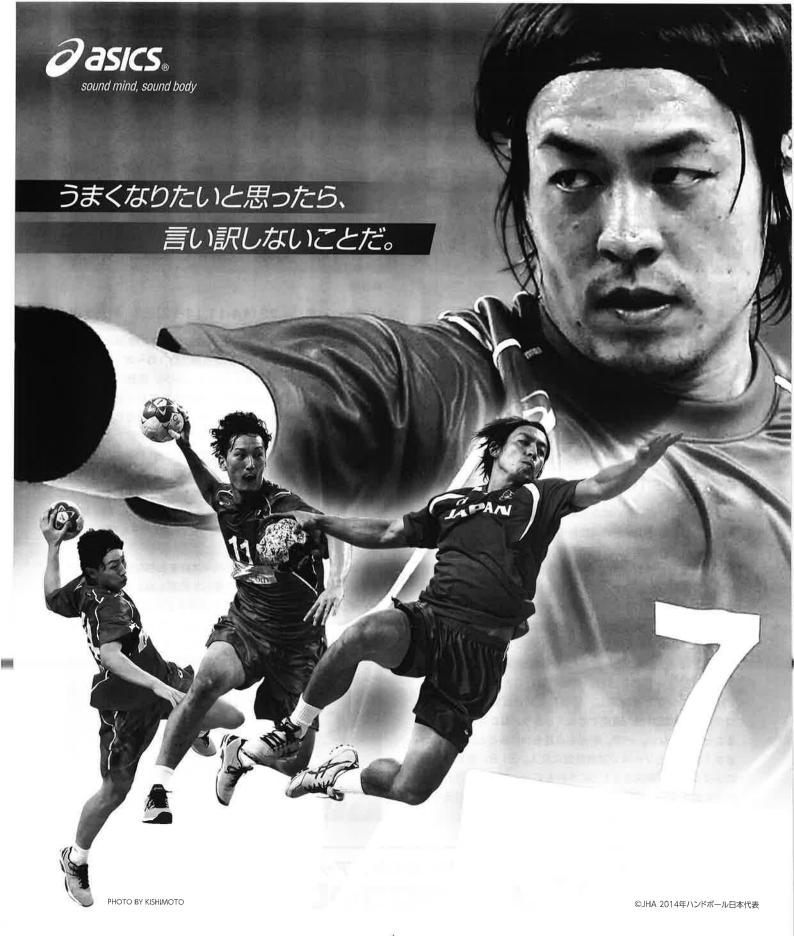
■決勝

県立水海道第二　28（14-11,14-12）23　明光学園

春夏連覇を狙う水海道第二と、創部2年で初優勝に期待がかかる明光学園の決勝戦は、水海道第二のスローオフで試合開始。水海道第二は、相澤のミドルシュート、齊藤のサイドシュートで2連取。流れを掴みたい水海道第二だったが、ピボット尾辻を使った巧みな攻めで、明光学園は序盤から一気に5連取。相手をつきはなしにかかる。前半の中盤、4対7と負け越していた水海道第二は、速攻や粘り強いドリブル突破、サイドシュートで4連取した齊藤の活躍が光り、逆転に成功。多様なシュートを決めた明光学園であったが、高めのディフェンスを崩され、水海道第二に5点差をつけられる。前半終盤に退場者を出した水海道第二であったが、リードを守りきり、14対11で前半を折り返す。

後半に入っても水海道第二のペースは変わらない。低めのディフェンスラインでピボットを使った攻撃を阻止し、速攻やカットインからのポストシュートで点差を広げる。試合の終盤、明光学園は再びピボットが機能してシュートを量産するもおよばず、水海道第二が28対23で勝利し、春夏連覇を決めた。

第29回 全国小学生ハンドボール大会

開催期日：平成28年7月28日(木)～7月31日(日)
会　　場：京田辺市田辺中央体育館、同志社大学体育館

男子
優　勝　北陸電力ジュニアブルーロケッツ（福井県）
準優勝　桃園ハンドボールクラブ（京都府）
第３位　神森小学校ハンドボールクラブ（沖縄県）
第４位　東海ハンドボールスクール（愛知県）

女子
優　勝　浦城小学校ハンドボールクラブ（沖縄県）
準優勝　小松ジュニアハンドボールクラブ（石川県）
第３位　薪小学校ハンドボールクラブ（開催地・京都府）
第４位　ＨＣ宇土（熊本県）

第29回全国小学生ハンドボール大会を振り返って

（公財）日本ハンドボール協会小学生専門委員長　**竹内 貞明**

連日猛暑日が続いた7/28～31に京都府京田辺市において、過去最大チーム数となる男女77チームを迎え、第29回全国小学生大会が盛大に開催されました。

今回から、「WEB中継による公開フリー抽選」、「同志社大学会場における仮設空調設備」、「日本協会派遣レフェリー８ペア」が実現し、出場チームに対してよりよい環境整備ができました。関係各位に深く御礼申し上げます。

開会式前には例年通り、NTS伝達講習会を開催し、小学生ハンドボールの現状及び2016トレーニングメニューを日本全国の小学生関係者に広める機会を設けました。昨年よりスタートした新ゲーム様式（Ｊクイックハンドボール）も２年目を迎えた結果、得点後の素早いボール展開とハンドボールコート全面を使った幅広い攻撃、コート全体を見渡す視野の広さ、OFのプレーの芽摘み、ボールカットを狙った積極的なDFを目的としたこのゲーム様式は、特に男子チームに浸透し、準決勝以上の試合はワクワクするようなゲーム展開が繰り広げられました。中でも、男子準決勝の桃園VS神森は非常にスピード感あふれるゲーム展開で、試合終了後には会場全体が両チームの戦いぶりに感動し、大きな拍手を送っていたのが印象的でした。今後も小学生段階において求められるゲーム様相を導けるよう検証作業を続けていきます。

試合結果を振り返ると、男子は福井県の北陸電力ジュニアブルーロケッツが多彩な攻撃パターンを展開し見事に初優勝を果たし、女子は沖縄県の浦城小学校ハンドボールクラブがエース田里優生子の強烈なシュートで得点を量産し２回目の優勝を成し遂げました。男子準優勝の地元京都府の桃園ハンドボールクラブ、女子準優勝は石川県勢として初の決勝進出を果たした小松ジュニアハンドボールクラブの戦いぶりも見事でした。

今大会に参加された約1,000名の選手に関わる、チームスタッフ及び保護者の皆様に対して、チーム指導や日頃の活動支援に心から感謝申し上げるとともに、今後もハンドボール界の宝である子供達を大切に育てて欲しいと願っています。今年の調査によると、全国各地で開催されている小学生大会は大小合わせて300大会を越えていることがわかり、喜びと悔しさの経験を数多く積む機会があることは、小学生段階においても、とても重要なことだと思います。

スポーツ界には「勝ち負けがあることで、人間として大きく成長することに繋がる」という考え方である『勝利主義』という言葉がありますが、一方で「勝つことだけに執着して、勝つためなら何をしても良い。勝つことだけが全てである」という『勝利至上主義』という考え方に陥らないことが、いまスポーツ界に最も求められていることの一つです。そのためにも、我々大人には大きな役割と責任があります。今後とも、子ども達の将来を見据えた指導内容と環境整備に、様々な努力を続けていく所存です。

４月14日熊本県を中心とした熊本地震では未だ多くの被災者が避難生活を余儀なくされている中、熊本県のチームが今大会に参加できたことに安堵するとともに、熊本県選手は勿論、スタッフ及び保護者の皆様に心から感謝し敬意を表したいと思います。本大会前にはチャリティーマッチとして大崎電気と湧永製薬の実業団チームにご協力頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

最後になりましたが、大会をサポート・運営していただいた京田辺市、京田辺市教育委員会、京田辺市社会体育協会ならびに京都府ハンドボール協会をはじめとする、地元関係者の皆様には大変ご苦労が多い中、献身的にご尽力いただいたことに改めて感謝し、心から御礼申し上げます。来年は30回記念大会を迎えます。記念行事を含めて、大きく盛り上がる大会を目指して頑張りたいと思います。

北陸電力ジュニアブルーロケッツ（福井県）

北陸電力ジュニアブルーロケッツ監督　田中 秀昭

今年、「北陸電力ジュニアブルーロケッツ」は、京田辺市で行われた「第29回全国小学生ハンドボール大会」で、創部（2000年）以来の目標だった「初優勝」を、3度目の正直でようやく勝ち取ることができた。

4月に結成した新チームは、大柄な選手はおらず、どちらかと言えば小粒、しかも絶対的エースはいない。そのため、「守って速攻」をチームカラーとし、ディフェンスを重点的に強化、また、全員でスピードある攻撃ができるよう「日本一」を目指して、厳しい練習をこなしてきた。

大会では、ベスト4まで危なげなく順調に勝ち進んだが、準決勝では、往年のライバルでもある「東海ハンドボールスクール」（愛知県）との対戦となった。8対6とリードしていたが3クォーターで流れが悪くなり、13対13の同点に追いつかれ延長になってしまった。

延長戦に入る前、子どもたちには「練習してきた事をいつも通りやろう」と声をかけ、また、軽く冗談を言うと子どもたちの顔に普段の笑顔が戻った。これならイケルと私は思った。結果、延長戦では失点が無く、見事20対13で勝利できた。

決勝戦は、「桃園ハンドボールクラブ」（京都府）と対戦。5月と6月に行なった練習試合ではほぼ互角だった。「お前らは本当に上手くなって来ている」「ここまで来た以上、あと一つ勝とう」「今までやってきた練習を信じて思い切って試合をしよう」と声をかけ、試合に送り出すと、最後は20対17で快勝した。

試合前、子どもたちは私の誕生日（決勝戦翌日）に必ず「優勝」をプレゼントすると誓ってくれており、大会中は試合する毎に攻守のレベルも上がり、試合内容も徐々に良くなっていった事が勝因の一つでもあると思う。

私は、毎年、子ども達に年賀状をだしている。それに今年は「日本一になれる」と書いた。今回、こうやって念願が叶い、選手、保護者、スタッフが一丸となり勝ち得た優勝という栄誉をとても誇らしく思う。

女子優勝 浦城小学校ハンドボールクラブ（沖縄県）

浦城小学校ハンドボール部監督　粟國 茂則

昨年の第28回全国小学生ハンドボール大会にも沖縄県代表として全国大会に出場しました。しかし、予選2試合目で愛知県代表の東海ハンドボールスクールに敗れ、予選敗退という成績で全国を後にしました。その後、昨年12月に行われた九州親善ハンドボール大会で優勝する事が出来、子供達が大きく変わりました。

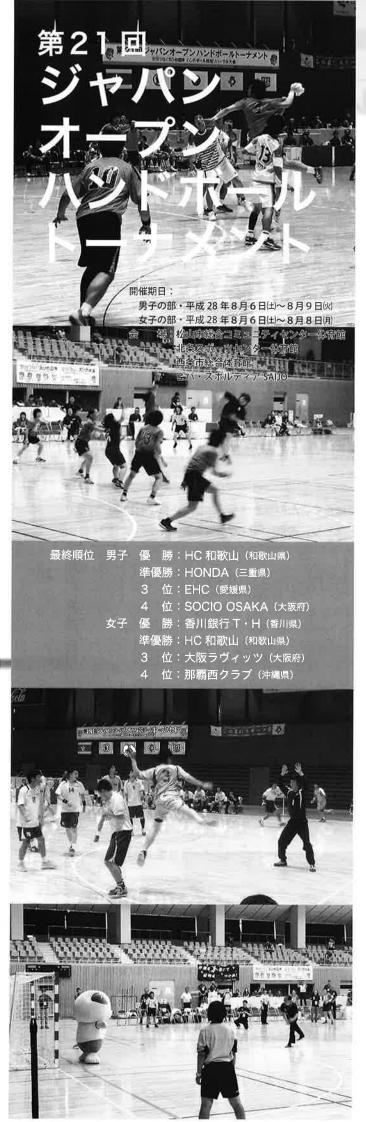
昨年の悔しい思いを忘れず絶対に「日本一」になりたいと気持ちを一つに日々の練習に励みました。今年のチームは昨年からメンバー入りしていたゴールキーパーやコートプレイヤーが引続きチームをまとめ、160㎝台の選手が3名もいる過去に例を見ないほどの大型チームです。その大きさを武器にロングシュートやポストを絡めたプレイで全国大会沖縄県予選を戦いましたが、名将・翁長監督の率いる神森小学校ハンドボールクラブ相手に決勝戦で延長までもつれ込み2点差で沖縄県代表の切符を手に入れました。

この接戦を経験した事が、子供達をさらに成長させ、全国大会ではミスからの動揺も少なく、冷静に自分達のプレイをする事が出来「日本一」になりました。また、今大会決勝戦までの5試合の総得点は93点、その内44得点を田里優生子が、決勝でも22点中、13点を挙げるなどエースとしての存在感は抜群だったと思います。

浦城小学校ハンドボールクラブとしては5年ぶり2度目の頂点に立つ事が出来ました。これも、昨年悔しい思いをした先輩達が、土日のほとんどを練習相手となり、仲西中学校女子ハンドボール部顧問の長嶺先生も快く承諾し中学生を練習試合に参加させていただいた事や子供達の為に声が嗄れるまで毎回応援した父母への感謝が絶えません。また、今大会は同志社大学デイヴィス記念館にクーラーが設置されるなど子供達に最高の環境を与えていただいた京都府京田辺市や大会運営にご苦労された京都府ハンドボール協会など多くの大会関係者に感謝して喜びの声とします。

浦城小学校ハンドボール部主将　田里 優生子

今年の全国大会は、登録選手全員が出場出来た事、決勝戦で6年生全員が得点を決めた事が、とてもうれしかったです。

沖縄では、先輩達や学校の先生、家族などの多くの人が応援してくれたので、期待に応えるために「一戦必勝」で勝ち進んでいきました。昨年の先輩達が沖縄県予選から全国大会までの練習を休みの日まで来て、練習試合の相手をしてくれました。だから、今回の全国制覇は私達だけではなく、父母や先輩達などの関わってくれた人達で勝取った全国制覇だと思います。また、沖縄にはたくさんのライバルがいるので負けない様に練習でミスを減らし、次戦に向けて頑張ります。

第21回ジャパンオープンハンドボールトーナメントを振り返って

愛媛県ハンドボール協会理事長　**東福 康浩**

平成28年8月5日、ちょうどリオデジャネイロ・オリンピックの開幕と同じくして、第21回ジャパンオープンハンドボールトーナメントが愛媛県で開催されました。

今回の大会は来年度に実施される「愛顔（えがお）つなぐえひめ国体ハンドボール競技リハーサル大会」として、来年度に合わせて松山市と西条市という隣接していない2つ市の計4会場で行うという、地理的には非常に分散された大会となりました。そのため、参加チームを初め各方面にはさまざまなご不便をお掛けしたことと思います。準備や運営におきましても、これまでに開催した大会には無い苦労や問題点もありました。また、本年度からは大会の「国際基準化」が求められるようになり、本大会におきましてもその基準での実施が求められたことに伴い、本県協会だけではすぐに解決できない課題も多く発生しました。しかしながら、日本ハンドボール協会、開催地の松山・西条両市の実行委員会、四国各県のハンドボール協会等のご協力を得て、無事に開催できましたことに心から感謝申し上げます。

今回の会場の一つとなりました西条市の「ビバ・スポルティアSAIJO」は、もともと体育館ではなく、人工芝の「屋内型運動場」ですが、本大会ではその人工芝の上にスポーツコートを敷き詰めての実施となりました。全国的にはすでに何度も実施されているスタイルですが、本県では初めてということでさまざまな面から注目しながら実施しました。幸い大きな問題は起きませんでしたが、課題もいくつか発見することができました。他の3会場も含め、今回の大会を通して発見した課題を来年の国体開催までに検討し、解決していきたいと思います。

さて、競技のほうは各地の予選を勝ち抜いた精鋭男子32チーム、女子16チームによる熱戦が、男子は4日間、女子は3日間に渡って繰り広げられました。日本リーグ勢を除く一般のクラブチームの頂点を目指して白熱した試合が続く中、地元ゆるキャラによるイベントなども催され、息詰まる中にも和やかな空気を織り交ぜ、大会を一段と盛り上げてくれました。男女ともに昨年の国体開催県・和歌山県のHC和歌山が決勝まで進みました。男子のHC和歌山は、三重県のHONDAと対戦、両チームともに連戦の疲れも見せず、攻守にわたって好プレーを連発し、最後までどちらが勝つかわからない展開となりましたが、前半のリードを守りきったHC和歌山が優勝しました。一方、女子のHC歌山は香川銀行T・Hと対戦し、終始堅守からの速攻で得点を重ねた香川銀行T・Hが優勝しましたが、HC和歌山も最後まであきらめず好プレーを見せてくれました。

来年の国体開催へ向けて、大会を盛り上げるためには地元チームの活躍が欠かせません。今大会では本県代表の男子EHCが第3位と躍進、女子EHCも緒戦を突破してベスト8と来年へ向けての足がかりとなる結果を残しました。また、緒戦で敗れはしましたが、男子のもう一つの県勢・新居浜クラブも健闘しました。大会に補助員として参加した多くの高校生にとっても、参加各チームが見せてくれたハイレベルなプレーは大いに刺激となったことと思います。今大会を通して得られたさまざまなものが、来年の「愛顔（えがお）つなぐえひめ国体」につながることを心から願っています。

最後になりましたが、暑い中各会場に足を運び熱心に声援をおくって下さった観客のみなさま、松山・西条両市の実行委員会およびボランティアスタッフのみなさま、日本ハンドボール協会、四国各県ハンドボール協会、本県ハンドボール協会および関係各位に心から御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

男子優勝 HC和歌山

HC和歌山監督　古家 雅之

第21回ジャパンオープンハンドボールトーナメント大会を終えて

昨年、地元和歌山県で開催された紀の国わかやま国体が終了し、その後も活動を続けていた私たちは、和歌山県でハンドボールの火を消さないためにも、是非とも昨年に引き続き良い結果を出したいと意気込んで大会に臨みました。

大会を振り返ってみると、初戦から決勝戦まで全ての試合で苦しい展開となりました。序盤は中々エンジンがかからない試合が続きましたが、勝ち進むにつれて徐々にチーム状態が向上していきました。4日間で5試合というハードな日程も、空調の効いた素晴らしい施設のおかげで快適にプレーすることができ、全員の力を結集して何とか昨年に引き続き優勝、連覇を達成することができました。

ここに来るまでには様々な紆余曲折がありました。昨年の地元国体終了に伴い、私たちのチームを取り巻く環境が変化し、それまで週に5回できていた練習も週に1～2回に減り、練習に参加できる選手も少ないという状況が続きました。4年前のチーム発足当時からチームを支えてくれたメンバーも、数名がチームを離れました。しかし、そんな状況の中でも選手は高い意識を持ち続け、与えられた環境の中で最大限に努力するという逞しさを身につけてくれました。

また選手が、地元国体によってせっかく高まってきた県内のハンドボールのレベル・盛り上がりといったものを、国体のレガシーとして今後も引き継いでいかなければという使命感を持ってくれたことも、今大会での好成績に繋がったのだと思っています。

この結果に満足することなく、これからもHC和歌山というチームがもっと魅力的なチームになっていけるように、チーム全員で精進していきたいと思います。

最後になりましたが、これまでHC和歌山の活動にご支援・ご声援いただいた皆様、HC和歌山に関わってくださった皆様に、深く感謝と御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

女子優勝 香川銀行T・H

香川銀行T・H副主将　荒木 美沙子

ジャパンオープン10連覇達成

今年のジャパンオープントーナメントでも“優勝”という2文字だけを勝ち取るために日々の練習に励んできました。特に今年は「10連覇」をかけた節目の大切な年でもあり、今まで以上にプレッシャーのかかる大会でもありました。また、今大会には大阪ラヴィッツや富山アランマーレなど日本リーグ入りに向け強化されたチームも参加しており、ディフェンディングチャンピオンとして10連覇を達成しなければいけないというプレッシャーもありましたが、今まで自分たちがやってきたことを自信に変え大会に臨みました。

初戦から決勝までチームカラーである“DFから速攻”を武器に全員で走り抜くことができたと思います。しかし、今大会最大の山場であった準決勝の大阪ラヴィッツ戦では、後半のラスト10分まで相手を追いかける展開となりました。追いつきそうで追いつけない、追いついても離される、なかなか自分たちのペースで試合をさせてもらえずに最大5点差まで離される展開が2回もありました。苦しい時間、我慢の時間の続く試合でしたが、その中でも粘って、チームカラーである“DFから速攻”で得点を重ね、逆転勝利をすることができたのは自分たちにとって今後の自信となりました。

そしてなにより、こうして10連覇を達成することができたのも、どんなに苦しい時間帯でも心強い声援を送って下さり、いつも私たちにパワーを下さった皆様のおかげであると実感しています。今大会、会社の方、保護者の方、OGの方、地元の小学生、中学生と本当に多くの方々が応援に来て下さいました。皆様の支えがあってこその優勝であり、感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、香川銀行をはじめ、ハンドボール協会各位、OGの方々や保護者の方々、チームにご支援、ご声援頂きました皆様に心より感謝申し上げます。

チーム一同、次なる目標に向かって日々努力し続けていきます。これからも成長し続ける香川銀行チームハンドをよろしくお願い致します。

戦評

男子

■３位決定戦

EHC　24（6－13、18－6）19　SOCIO OSAKA

EHCのスローオフで試合が始まった。EHCが宮脇のカットインで先制、その後のDFでもSOCIOに得点を許さなかった。しかし、SOCIOはGK安田の好セーブをはじめ、堅守でEHCの追加点をなかなか許さない。SOCIO・下山の速攻から雑賀のポスト、大坂のサイドで３連取した。EHCは、パスカットから福田の速攻で得点するが、池田が7mTを止められるなど、SOCIOのGK安田をはじめとする堅守で本来のOFができない。SOCIOは、雑賀、泉原、小幡の３連取でリードを広げる。EHCはタイムアウトを取り、クイックスタートからの展開や多彩なパスワークでOFを試みるが、前半は池田と西山が得点を重ねるのみだった。逆に、SOCIOは小幡、中坪、雑賀らが着々と得点を重ね、13対６とリードを広げて前半を終了した。

後半は試合の流れがEHCに傾く。SOCIO・中坪の7mTをEHCのGK武智が好セーブすると、クイックスタートから新のサイドを皮切りに５連取。SOCIOはGK安田を中心に懸命のDFを試みるが、長谷の鋭いカットインや宮脇のミドル、西山の速攻など、本来のOFを取り戻したEHCが得点を重ねる。完全に試合の主導権を握ったEHCは、試合終盤に西山の速攻で逆転に成功、その後も着実に得点を重ねたEHCが24対19で勝利した。

■決勝戦

HC和歌山　26（16－10、10－9）19　HONDA

前回覇者のHC和歌山に、３年ぶりの決勝進出を決めたHONDAが挑んだ決勝戦。開始早々HONDAが竹田のステップで先制すると、すかさずHC和歌山の榮がミドル、続けて宮本がステップを決めて２対１とする。両チームともしっかりと足を動かしたDFを駆使し、HONDAの岡田、瀬元、早川が一本一本気を吐きながらシュートを決めると、HC和歌山も安松らの活躍で得点を取り返すという、一進一退の攻防が続いた。試合が動いたのは13分過ぎ。HC和歌山が華麗なダブルスカイを決めたのを皮切りに、水井らの活躍により４連取して頭一つ抜け出す。HONDAはタイムアウトを取り、素早い帰陣を促し、速攻を仕掛けるが、HC和歌山の戻りが早く、なかなかシュートに結び付けることができない。その間、HC和歌山は本田のループ、永井のミドルなどで着実に加点、GK前田の好セーブも光り、16対10で前半を終了する。

後半、巻き返しをはかりたいHONDAは、岡田、伊藤のサイドなどで果敢に攻めるものの、相手GKに阻まれ、なかなか点差が縮まらない。一方、HC和歌山は堅いDFから速攻を繰り出し、テンポ良く加点、HONDAの追撃をかわして２年連続の優勝を決めた。

女子

■３位決定戦

大阪ラヴィッツ　37（19－7、18－9）16　那覇西クラブ

来シーズンから日本リーグに参戦を目指す大阪ラヴィッツと、前回大会３位の那覇西クラブの対戦となった女子３位決定戦。前半は那覇西のスローオフで試合が始まった。那覇西が仲村のサイドで先制すると、大阪ラヴィッツも永塚のサイドで応戦。序盤は両チームともサイドで得点を重ね、一進一退の攻防が続く。しかし、大阪ラヴィッツは速攻や田中を起点としたコンビネーションプレーなどで４連取するなど、徐々に那覇西を引き離す。13分に那覇西はタイムアウトを取り、悪い流れを断ち切ろうとする。しかし、大阪ラヴィッツの堅いDFをなかなか崩すことができず、逆に速攻を許す展開となる。その後も大阪ラヴィッツは持ち味の速攻を駆使して７連取する。那覇西は國川のブラインド、積のポストなどで反撃するが、大阪ラヴィッツが19対７とリードをして前半を終える。

後半も大阪ラヴィッツは攻撃の手を緩めず、市川の速攻などで６連取する。那覇西は佐久川のカットインなどで反撃を試みるが、主導権を握れない苦しい展開が続く。那覇西は16分にタイムアウトを取り、３連取するなど意地を見せる。しかし、大阪ラヴィッツは最後まで集中したDFから川崎、市川などの速攻で着実に得点を重ね、37対16で勝利した。

■決勝戦

香川銀行Ｔ・Ｈ　25（15－6、10－7）13　HC和歌山

女子決勝戦は、10連覇を狙う香川銀行Ｔ・Ｈと、２年越しで初の栄冠を狙うHC和歌山という、３年連続で同じ対戦カードとなった。試合は、HC和歌山が加陽のサイドで先制すると、香川銀行が國方、荒木で４連取し、すかさず逆転。すると、HC和歌山が堪らずタイムアウトを請求し、パス回しから中村のステップで応戦するが、香川銀行のアグレッシブなDFから速攻を繰り出し、点差を８点に広げる。前半残り10分間は、両チームとも集中したDFやGKの好セーブなどにより一進一退の攻防を展開、香川銀行が15対６のリードで前半を折り返した。

後半立ち上がり、HC和歌山は連続して退場者を出してしまうが、長尾のミドル、GK大串の勝負強いキーピングで香川銀行の勢いを止める。後半23分までは両者一歩も譲らず膠着状態が続いたが、試合終盤、香川銀行は土井、重信、國方、石川の４連続得点で、必死に食らいつくHC和歌山を一気に引き離した。要所で連続得点を挙げ、試合を優位に進めた香川銀行に軍配が上がり、10年連続10回目の優勝を果たした。連戦を戦い抜いた両チームの健闘を称えたい。

ジャパンオープンレポート

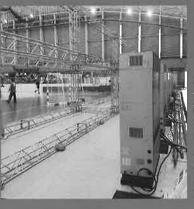
ここでは、〈第21回ジャパンオープンハンドボールトーナメント〉〈愛顔（えがお）つなぐえひめ国体ハンドボール競技リハーサル大会〉の会場のひとつとなったビバ・スポルティアSAIJOの雰囲気を紹介する。

会場となったビバ・スポルティアSAIJO。すぐ前に広い駐車場があり、入口の周りのテントでは無料ドリンクの配布や特産品の販売がされていた。

会場に入ると各チームに一人ずつ案内係がついた。会場に入ってから出るまで様々な質問や要望に応えてくれた。

人工芝の施設にパネルを敷いて作られたフロア。多少床が動く感触はあったがよく止まるフロアだった。

フロア脇の選手控室の様子。各チームの控室があらかじめ決められ、それぞれのテントの周りには扇風機が設置されていた。

フロア隣の人工芝のアップ会場は新鮮。少しボールに汚れが付く感は否めないが、問題なくアップが行えた。

冷房のない施設だが、両側のゴール裏に簡易冷房設備が設置され、快適にプレーできた。ゴール裏の鉄パイプに勢い余ってぶつかりそうになる場面がみられたのでクッションを置くなど工夫が必要だと思われる。

大会を振り返り

大会副委員長　金沢工業高等専門学校学生主事　**瀧本 明弘**

平成28年8月16日(火)～8月18日(木)の3日間、石川県金沢市のいしかわ総合スポーツセンターにおいて、第51回全国高専体育大会第43回全国高専ハンドボール選手権大会が、参加16チームにより開催された。この大会には、熊本高専（八代）の出場もあった。私たちは熊本の被災者の皆様方の苦しみ、悲しみ、そして痛みに心を寄せるとともに、立ち向かう熊本の皆さんから勇気ももらっている。心からのエールを送らせていただきたい。

8月16日（火）の午前10時から1時間ごとに、各チームに試合コートでの練習時間が割り振られてあるため、その時間をめがけてチームが集まりだした。学生選手権では、参加チームが多く、このような、試合コートでの練習時間を設けることは大変困難だが、この高専大会では、例年実施されているので、チームにとってはありがたいことである。

さて、練習時間も終わり予定通り、14時30分から顧問会議が実施された。これからの高専のハンドボールについての重要な会議である。内容は、来年度からの予定、出場チーム数、各地区チームの活動状況などであった。引き続き15時30分からは、代表者会議であった。役員紹介の後、大会委員長で、主管校である金沢工業高等専門学校のルイス・バークスデール校長より、歓迎の挨拶があった。次に大会競技委員長である、石川県ハンドボール協会の酒谷信彦理事長、そして、大会副競技委員長の川原繁樹全国高等専門学校ハンドボール競技専門委員長より挨拶があった。

その後、阿部羅大造審判長より競技上の注意があり、引続き体育館の使い方や、ごみの処理、駐車の注意等の連絡事項があった。本体育館は、サブアリーナを含めると、ハンドボールコートが4面取れる、大変素晴らしい施設である。また観覧席で、室内用シューズに履き替えれば、試合用フロアを含めて館内すべてにおいて履き替えずに入ることが出来るという、大会参加者にとっても、また、運営側にとっても非常にやりやすい会場である。

本大会は、代表者会議終了後に組み合わせ抽選会が行われ、大いに盛り上がった。その結果、昨年度の優勝校の金沢高専と、前回の金沢大会で決勝戦を戦った岩手・一関高専が1回戦で対戦する事になった。また、地元石川高専は、九州1位の北九州高専との対戦になった。

16時30分より、メインアリーナ中央コートで、開会式が挙行された。全チーム整列後、開会宣言に続き、ルイス大会会長から英語を交えたあいさつがあった。その後、日本協会の行田理事の、渡辺会長の挨拶代読があり、次に、大会副委員長である、石川県ハンドボール協会中村和哉会長代行より、歓迎の言葉があった。日本リーグ女子の北國銀行ハニービーをはじめとして、ハンドボールが大変盛んな石川に皆さんをお迎えできたことは大変うれしく、また、観光も楽しんでいってほしいという内容であった。

主管校の、金沢高専ハンドボール部主将の木戸脩平君の力強い選手宣誓があり、終了した。

8月17日（水）9時30分より1回戦が始まった。1点差の試合など、熱戦も多くあり、ベスト8には、米子、函館、石川、鈴鹿、豊田、金沢、大阪府立大、高知が残った。熊本（八代）は、地震の影響があり、練習にあと1か月あればという思いがあったと聞いた。しかし、厳しい状況の元、予選を勝ち抜き出場したことは、頭が下がる思いである。

さて、午後からの準々決勝の結果、米子、石川、豊田、大阪府立大が準決勝へコマを進めた。米子対石川は石川、大阪府立大対豊田は豊田が勝ち、決勝は地元石川対豊田という東海北陸地区同士の対戦となった。その結果23対18で豊田が、11年ぶり8回目の優勝を飾った。

決勝終了後、閉会式が挙行された。阿部羅審判長の成績発表後、表彰式に移り、豊田高専に表彰状、優勝杯が授与され、また2位の石川高専には、表彰状、準優勝杯が授与された。続いて、豊田、石川の両高専と3位の米子、大阪府立大高専にメダル授与が行われた。プレゼンターは、ルイス大会委員長、行田理事、酒谷競技委員長、川原競技副委員長であった。その後、川原競技副委員長より優秀選手が発表された（別表）。引き続いてルイス大会委員長の挨拶があり、酒谷競技委員長から講評をいただいた。最後に閉会宣言があり、終了した。

最後になりましたが、今大会を運営するにあたってお世話頂いた、石川県ハンドボール協会、そしては補助員をしていただいた中学生位のみなさんに厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

【最終順位】

優　勝：豊田高専（東海・北陸地区）
準優勝：石川高専（東海・北陸地区）
３　位：米子高専（中国地区）
　　　　大阪府大高専（近畿地区）

【優秀選手賞】

桜井　勇治　（豊田高専）
後藤　昭人　（豊田高専）
水野　幸将　（豊田高専）
林　佑樹　（石川高専）
渡邊　大尊　（石川高専）
宇野　鉄平　（大阪府大高専）
門脇　大介　（米子高専）

戦　評

【準決勝】石川高専　23（13-9, 10-12）21　米子高専

米子高専藤原のポストプレイが先制点となる。試合序盤は石川高専が米子高専の高い3-2-1DFに苦しみ、チャージやパスミスが続いた。しかし、廣瀬の回り込みの得点を皮切りに、林、斉藤のカットインと得点を重ねる。米子高専は9分間得点が入らない苦しい展開が続いたが、メンバー交代した仲村が体格と左利きを生かした力強い上からのシュートで2連続得点する。しかし、そこからミスが続き5点差がついたところでタイムアウトをとる。

後半立ち上がり、米子高専はDFから積極的に速攻を展開し、14分ついに同点となる。石川高専は高いDFにミスを重ね、点が入らない。一進一退の時間が続く。しかし、石川高専林が上からサイドからと2連続、22分に米子高専4番仲村が退場となり3点差とする。24分37秒、米子高専が1点差とし、マンツーマンを仕掛けるが、斉藤がドリブルからシュートを決め試合終了となった。石川高専は終始リードされることなく試合を展開した。

男子優勝　国立豊田工業高等専門学校（東海･北陸地区）

国立豊田工業高等専門学校監督　田中 淑晴

11年ぶりの全国制覇！

このたび本校ハンドボール部が、第43回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会において11年ぶりに優勝することができました。これも、日頃より御声援、御支援頂きました保護者のみなさま、学校関係者のみなさま、豊田市ハンドボール協会のみなさまを始めとした本校ハンドボール部の活動に御助力頂いたみなさまのおかげと感謝申し上げます。

11年ぶりの優勝となりましたが、それ以前は平成14年度の第29回大会から平成17年度の第32回大会にかけて全国優勝4連覇を果たすなど計7回の優勝をしており一目置いて頂ける存在であったかと思います。しかし、4連覇後に2年連続での準優勝となってからは、8年間で全国ベスト4が1回のみとなっており、東海地区大会で敗退し全国大会への出場ができない大変辛かった年もありました。しかし、そのような苦しい時代を過ごした先輩たちの話は学生の間で脈々と継がれており、その先輩たちの思いも背負い大会に臨みました。チームは、絶対に走り負けないことを目指し練習に励んできました。今大会では、「守って速攻」が随所に見られ試合を重ねるたびにチームの盛り上がりも大変良くなってきました。ベンチ入りできなかった選手やマネージャも含めてチームが完全に一体となれたことが、優勝という結果を得ることができた理由の一つに挙げられるかと思います。もちろん、全国大会優勝を目指した練習も学生たちにとって大変ハードであったと思います。限られた時間の中で練習に励んできた学生諸君に最大の称賛を伝えるとともに、多くの方にサポートして頂いているという感謝の気持ちを持ち、まずは連覇を目指してがんばって参りたいと思います。

末筆になりましたが、開催校として大会運営に万全の準備をして頂きました金沢高専の瀧本明弘先生、石川高専の川原繁樹先生をはじめとした大会運営関係者のみなさまに厚く御礼申し上げます。

国立豊田工業高等専門学校主将　後藤 昭人

負けから学んだこと

私たち豊田高専ハンドボール部は、指導者の下、この全国高専ハンボール選手権大会優勝を目標に日々努力をしてきました。私たちが全国優勝を出来たのは数々の負けがあったからです。

私たちは、今年を含め第40回から連続4年、全国大会に出場することができました。しかし、40、41回ともに予選リーグで敗退しました。この時の先輩方が悔し涙を流す姿を見て、自分たちの弱さを見つめなおすとともに、先輩方の果たせなかった全国高専大会で優勝することを強く決意しました。現在の5年生は、1学年上の先輩がいないため41回大会後からは3年生にもかかわらず最高学年として活動していました。そのメンバーで挑んだ第42回大会は2回戦敗退の第8位という結果に終わりました。幸い引退して欠けるメンバーがおらず、1年かけてこの第42回大会の反省をするとともに、全体のレベルアップをしてきました。

そして、今までで最も多い練習量、最高のメンバーで挑んだ今回の高専大会では、東海地区大会で鈴鹿高専に1点差で敗れました。この結果をうけて、今までの練習に不足していたものを全国大会前の約1カ月、部員全員で話し合いました。そこで出た意見が、精神的に強くするチーム作りでした。地区大会でも、去年の全国大会でも点数が均衡しているときに、相手を突き放すことができない、ミスをしてしまうなど精神的に弱い面がありました。そこで、点数が負けている状態での5分ミニゲームなどの厳しいシチュエーションを想定した練習を多くすることによって、自分たちをとことん追い込んで来ました。これらの練習をしてきたおかげで、点数が均衡していたり、負けていたりしても、全員諦めることなく元気に声を出せるようになり、どんな場面でも自分たちのプレーを臆する事なく出すことができました。

数々の敗退があったからこそ、自分たちを見つめ直すことができ、チームの団結力が強くなりました。他の高専との熱い戦いがなければ全国優勝はなかったと思います。

戦　評

【準決勝】豊田高専 23（11-7, 12-10）17 大阪府立高専

豊田水野のサイドシュートで動き出した試合は両チームともディフェンスを頑張り、ロースコアの展開に。大阪の長身エース宇野にマンツーマンをつける等、最少失点におさえた豊田が後藤のスカイプレーや速攻でリズムに乗り、優位に試合を進めるも前半間際に大阪が2連取し、後半に望みを繋いで前半が終了。

後半立ち上がり、先手を取ったのも豊田。一気に突き放すかと思われたが、あたりが出始めた宇野の得点で予断を許さぬ展開に。残り4分に3点差までつめ寄った大阪であったが最後まで気力・走力が衰えなかった豊田が逃げ切った。敗れはしたが終始全力プレイを貫いた大阪の健闘を讃えたい。

【決勝】豊田高専　23（11-8, 12-10）18　石川高専

決勝戦は地元石川と11年ぶりの優勝をねらう豊田との対戦となった。前半は互いに波に乗れず、ロースコアでのスタートとなった。10分過ぎに豊田が駒井の連続速攻で6対3と3点差とするが、石川も15分過ぎから甲谷の連続得点で追いかけた。20分過ぎから豊田はGK桜井の好セーブからの速攻やスカイプレーを織り交ぜ、11対8の豊田3点リードで終了。両チームともややミスが目立ったが、GKの好セーブが光った前半であった。

後半も両GKの好セーブで点が動かずゲームが流れた。5分過ぎから豊田がセットで攻めあぐむ中、石川が林のロングシュートで2点差まで迫る。その後、両チーム速攻中心に一進一退をくり返し、3点差で推移する。残り10分から豊田GK桜井の好セーブから速攻で得点を重ね、スカイプレーやインターセプトからの速攻でゲームを決定づけ、最期はGKの7mTが決まり、23対18で豊田が11年ぶりの優勝を果たした。石川も最後まで走り、スピード感ある好ゲームであった。

第41回日本ハンドボールリーグ
開幕記者発表

9月5日（月）渋谷にて、9月10日（土）から開幕する第41回日本ハンドボールリーグの開幕記者発表が行われ、各チームの監督・ヘッドコーチから抱負が語られた。レギュラーシーズンは10日の開幕から平成29年3月5日まで、男子は9チーム、女子は7チームが参加し、全国各地で男子は2回戦総当たりの72試合、女子は3回戦総当たりの63試合が展開される。そして各上位4チームが3月開催のプレーオフへと勝ち進むことができる。また、今回は、外国籍選手の登録と出場が緩和され、試合の登録は制限なし、オンコート出場はCP2名、GK1名の合計3名まで出場が認められる。チーム監督・ヘッドコーチとは以下の通り。

日本ハンドボール協会
副会長兼専務理事　蒲生晴明

（日程などは、日本ハンドボールリーグのHPを参照ください。http://www.jhl.handball.jp/jhl41/schedule/index.html）

	チーム名	役職	監督
男子	トヨタ自動車東日本　REGAROSSO	監督	中川　善雄
	大崎電気　OSAKI OSOL	監督	岩本　真典
	北陸電力　ブルーサンダー	監督	前田　亮介
	大同特殊鋼　Phenix	監督	※岸川　英誉
	トヨタ車体　BRAVE KINGS	監督	酒巻　清治
	豊田合成　Blue Falcon	監督	畠中　益喜
	湧永製薬　WAKUNAGA LEOLIC	監督	中山　剛
	トヨタ紡織九州　Red Tornado	監督	石黒　将之
	琉球コラソン	監督	※水野　裕紀
女子	北國銀行　Honey Bee	監督	荷川取　義浩
	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	監督	山川　由加
	ＨＣ名古屋	ヘッドコーチ	※新井　翔太
	三重バイオレットアイリス	監督	櫛田　亮介
	広島メイプルレッズ	監督	金　明恵
	オムロン　ピンディーズ	ヘッドコーチ	黄　慶泳
	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング　BLUE SAKUYA	監督	※大城　章

※印は今シーズンよりの新監督です。

男子
9チーム

トヨタ自動車東日本 REGAROSSO
監督　中川善雄

大崎電気 OSAKI OSOL
総監督　岩本真典

北陸電力ブルーサンダー
監督　前田亮介

大同特殊鋼 Phenix
監督　岸川英誉

トヨタ車体 BRAVE KINGS
監督　酒巻清治

豊田合成 Blue Falcon
監督　畠中益喜

湧永製薬 WAKUNAGA LEOLIC
監督　中山　剛

トヨタ紡織九州 Red Tornado
監督　石黒将之

琉球コラソン
監督　水野裕紀

女子
7チーム

北國銀行 Honey Bee
監督　荷川取義浩

飛騨高山ブラックブルズ岐阜
監督　山川由加

ＨＣ名古屋
ヘッドコーチ　新井翔太

三重バイオレットアイリス
監督　櫛田亮介

広島メイプルレッズ
監督　金　明恵

オムロン ピンディーズ
ヘッドコーチ　黄　慶泳

ソニーセミコンダクタマニュファクチュアリング BLUE SAKUYA
監督　大城　章

～知名度アップ、今がチャンス～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

夏休みのジュニアクラスの大会に続いて、実業団やクラブチームなどのシーズンが本格化、各地で熱戦が繰り広げられている。中でも注目されるのが41回目を迎えた日本リーグ。前回はリオ五輪予選の関係から11月のスタートだったが、今シーズンは例年通りのスケジュールに戻り、全日本社会人選手権の翌週、9月10日からスタートした。来年3月のフィニッシュまで、息詰まる熱い戦いを期待したい。

加盟チームに変動はなく、男子が9、女子7。男子が2回戦総当たり、前回2回戦総当たりだった女子は再び3回戦総当たりとなりレギュラーシーズンを戦い、男女とも上位4チームが3月のプレーオフに進出、頂点を目指す最終決戦に臨む。

前回の男子は4強へ最後まで予断の許さない戦いが続き、女子は北國銀行、オムロンが2強を形成したシーズンだった。今回の勢力図はどうなるのか、興味は尽きないが、まずは男女とも全試合で激しく、パワフルなプレーでファンの注目を集めることが出来るか。ハンドボールの人気、普及、強化につながることを肝に銘じて戦ってもらいたい。

役割の一つに挙げられるのが（長年の懸案でもあるが…）ハンドボールという知名度のアップであることは、だれも異論の挟む余地はないと思う。

高校生の真夏の戦い、インターハイの会場をこの夏久しぶりにのぞいてみた。会場内は確かに大ぜいの人が詰め掛けにぎわっていた。しかし、選手はもちろんのこと、ほとんどが保護者や関係者だったことが気になった。もっと一般のファンに足を運んでもらうことが「認知度アップ」には欠かせない。

日本リーグでもしかりである。リーグがあることさえ知らない人たちがいっぱいいる事実と正面から向き合う仕掛けが重要だろう。街角へのポスターの掲示や、それぞれホームチームの地域でのイベント参加など積極的にアピールして、観客増につないでいくことが、知名度や人気度を高めていくことになるはずだ。

当然ながら選手はレベルの高いプレーに全力を尽くし、観戦者に感動を与え、楽しさを提供するのはもちろんだが、それだけで解決する問題ではない。コート外での「後方支援」が、非常に重要なテーマである。

4年後のオリンピック東京2020に向け、ハンドボールの存在感をどう高めるか。一刻も猶予は許されない。前年には女子の世界選手権も迫る。東京へ向け積極的に動く他の競技団体以上の「仕掛け」がなければ埋没の危機さえ招きかねない。全精力を投入して競技発展につながる最大のチャンスを生かすことが、ハンドボールに関わる全ての人の責務だろうと考える。

スコアルーム①

高松宮記念杯第67回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

開催期日：2016年8月1日（月）～8月7日（日）
会　場：山口県・キリンビバレッジ周南総合スポーツセンターほか

【男　子】

▼１回戦

博　多（福岡）	32（16－10、16－5）15	札幌西（北海道）
岐阜商業（岐阜）	30（13－10、17－12）22	昭和第一学園（東京）
湯　沢（秋田）	28（16－8、12－10）18	広（広島）
昭和学院（千葉）	34（17－12、17－20）32	神戸国際大附（兵庫）
不来方（岩手）	31（15－6、16－10）16	高知中央（高知）
興　南（沖縄）	30（14－13、16－12）25	富　岡（群馬）
小林秀峰（宮崎）	27（15－6、12－11）17	境（鳥取）
國學院大學栃木（栃木）	34（17－7、17－11）18	山形中央（山形）
総　社（岡山）	30（13－7、17－9）16	帝京安積（福島）
洛　北（京都）	26（15－6、11－9）15	佐賀清和（佐賀）
中部大学春日丘（愛知）	28（15－7、13－9）16	金沢市立工業（石川）
県利府（宮城）	24（10－12、14－10）22	松山工業（愛媛）
九州学院（熊本）	44（22－9、22－8）17	松江工業（島根）
高岡向陵（富山）	40（22－6、18－16）22	徳島市立（徳島）
駿台甲府（山梨）	46（21－9、25－15）24	清水桜が丘（静岡）
一　条（奈良）	29（11－11、18－9）20	三本木（青森）

▼２回戦

岩国工業（山口）	26（11－8、15－7）15	博　多（福岡）
岐阜商業（岐阜）	45（21－6、24－8）14	柏崎工業（新潟）
瓊　浦（長崎）	31（15－7、16－8）15	湯　沢（秋田）
昭和学院（千葉）	25（15－11、10－9）20	香川中央（香川）
北　陸（福井）	31（15－13、10－12）30 （3－3 延長 3－2）	不来方（岩手）
興　南（沖縄）	31（15－9、16－11）20	近江兄弟社（滋賀）
小林秀峰（宮崎）	30（14－13、16－15）28	四日市工業（三重）
大体大浪商（大阪）	39（21－7、18－6）13	國學院大學栃木（栃木）
横浜創学館（神奈川）	24（9－7、15－14）21	総　社（岡山）
洛　北（京都）	42（23－11、19－15）26	長野南（長野）
中部大学春日丘（愛知）	32（15－11、17－13）24	鹿児島工業（鹿児島）
藤代紫水（茨城）	27（13－6、14－7）13	県利府（宮城）
浦和学院（埼玉）	30（16－12、14－9）21	九州学院（熊本）
高岡向陵（富山）	34（19－7、15－17）24	紀北農芸（和歌山）
駿台甲府（山梨）	35（15－15、20－16）31	下松工業（開催地）
大　分（大分）	34（17－8、17－10）18	一　条（奈良）

▼３回戦

岩国工業	33（15－14、18－9）23	岐阜商業
瓊　浦	31（13－7、18－11）18	昭和学院
北　陸	30（13－13、17－16）29	興　南
大体大浪商	38（19－11、19－10）21	小林秀峰
洛　北	32（15－9、17－15）24	横浜創学館
中部大学春日丘	36（13－18、14－9）35 （3－2 延長 2－3）（4 7mTC 3）	藤代紫水
高岡向陵	31（17－13、14－9）22	浦和学院
大　分	40（19－15、21－18）33	駿台甲府

▼準々決勝

岩国工業	28（13－7、15－10）17	瓊　浦
大体大浪商	34（19－10、15－13）23	北　陸
洛　北	26（16－10、10－11）21	中部大学春日丘
大　分	31（12－12、19－10）22	高岡向陵

▼準決勝

岩国工業	34（17－12、17－10）22	大体大浪商
大　分	27（14－12、13－10）22	洛　北

▼決　勝

岩国工業	29（11－12、18－8）20	大　分

【女　子】

▼１回戦

夙川学院（兵庫）	32（18－5、14－9）14	神崎晴明（佐賀）
四日市商業（三重）	45（22－2、23－4）6	松江南（島根）
大　分（大分）	27（15－9、12－14）23	山　陽（広島）
小　松（石川）	29（15－10、14－7）17	函館工業（北海道）
福井商業（福井）	48（28－3、20－6）9	土　佐（高知）
不来方（岩手）	27（16－11、11－10）21	昭和学院（千葉）
洛　北（京都）	42（19－3、23－7）10	青森中央（青森）
佼成学園女子（東京）	27（16－3、11－12）15	飛騨高山（岐阜）
小林秀峰（宮崎）	27（12－10、15－10）20	富　士（静岡）
郡山女子大附（福島）	29（15－11、14－7）18	一　条（奈良）
日　川（山梨）	28（15－7、13－6）13	和歌山商業（和歌山）
聖和学園（宮城）	27（14－10、13－6）16	池　田（徳島）
栃木商業（栃木）	29（11－7、18－11）18	立命館守山（滋賀）
高岡向陵（富山）	38（19－5、19－6）11	日本大学山形（山形）
清　峰（長崎）	26（13－7、13－8）15	県屋代（長野）
高松商業（香川）	36（22－3、14－3）6	境（鳥取）

▼２回戦

水海道第二（茨城）	34（18－9、16－10）19	夙川学院（兵庫）
四日市商業（三重）	17（9－5、8－8）13	今治東中等教育学校（愛媛）
大　分（大分）	30（18－8、12－15）23	大曲農業（秋田）
高　津（神奈川）	27（13－7、14－9）16	小　松（石川）
四天王寺（大阪）	26（17－12、9－9）21	福井商業（福井）
浦添商業（沖縄）	28（15－7、13－19）26	不来方（岩手）
洛　北（京都）	33（18－3、15－12）15	城　北（熊本）
佼成学園女子（東京）	21（8－12、13－7）19	華　陵（開催地）
高　水（山口）	29（14－9、15－9）18	小林秀峰（宮崎）
埼玉栄（埼玉）	20（11－5、9－12）17	郡山女子大附（福島）
日　川（山梨）	40（17－6、23－3）9	新潟江南（新潟）
明光学園（福岡）	28（13－7、15－5）12	聖和学園（宮城）
鹿児島南（鹿児島）	32（16－4、16－8）12	栃木商業（栃木）
高岡向陵（富山）	18（10－8、8－9）17	玉野光南（岡山）
富岡東（群馬）	27（10－12、17－8）20	清　峰（長崎）
高松商業（香川）	27（12－13、15－6）19	星　城（愛知）

▼３回戦

水海道第二	25（12－5、13－9）14	四日市商業
大　分	29（16－11、13－12）23	高　津
四天王寺	32（18－7、14－11）18	浦添商業
佼成学園女子	24（11－7、13－10）17	洛　北
高　水	28（15－10、13－15）25	埼玉栄
明光学園	33（13－10、20－7）17	日　川
鹿児島南	18（7－10、11－7）17	高岡向陵
高松商業	12（7－4、5－5）9	富岡東

▼準々決勝

水海道第二	29（18－11、11－14）25	大　分
四天王寺	26（7－11、19－11）22	佼成学園女子
明光学園	22（8－7、14－11）18	高　水
高松商業	15（8－7、7－4）11	鹿児島南

▼準決勝

水海道第二	22（11－5、11－11）16	四天王寺
明光学園	25（14－12、11－10）22	高松商業

▼決　勝

水海道第二	28（14－11、14－12）23	明光学園

スコアルーム②

第29回全国小学生ハンドボール大会

開催期日：2015年7月28日（木）～7月31日（日）
会　場：京都府・京田辺市田辺中央体育館ほか

【男　子】

▼Ａブロック

境港マリンバード	25（10－1、6－4、9－7）12	古川ＧＥ
神森小学校HC	20（6－4、6－5、8－4）13	三松スポーツ少年団
三松スポーツ少年団	33（7－3、12－4、14－3）10	古川ＧＥ
神森小学校HBC	22（7－7、6－4、9－6）17	境港マリンバード

【順位】①神森小学校ハンドボールクラブ（沖縄）②境港マリンバード（鳥取）③三松ハンドボールスポーツ少年団（宮崎）④古川GE（宮城）

▼Ｂブロック
高知ＪＨＣ 18（4－2、8－8、6－5）15 小島小学校HC
岩国レインボーキッズ 21（5－4、9－6、7－10）20 高知ＪＨＣ
岩国レインボーキッズ 20（5－3、6－6、9－7）16 小島小学校HC
【順位】①岩国レインボーキッズ（山口）②高知JHC（高知）③小島小学校ハンドボールクラブ（長崎）

▼Ｃブロック
土浦ＨＣ 18（10－1、4－4、4－6）11 富岡イーグルス
ＨＣ市川 20（6－3、6－6、8－2）11 高山ミニHC
高山ミニHC 20（6－3、9－0、5－6）9 富岡イーグルス
ＨＣ市川 20（6－9、6－3、8－4）16 土浦ハンドボールクラブ
【順位】①HC市川（千葉）②土浦ハンドボールクラブ（茨城）③高山ミニハンドボールクラブ（岐阜）④富岡イーグルス（群馬）

▼Ｄブロック
桃園ＨＣ 22（10－2、7－2、5－11）15 かやげＨＣ
小松ジュニアHC 13（5－4、3－4、5－4）12 愛媛ジュニアーズ
かやげＨＣ 22（7－0、8－3、7－5）8 愛媛ジュニアーズ
桃園ＨＣ 22（10－3、9－4、3－5）12 小松ジュニアHC
【順位】①桃園ハンドボールクラブ（京都）②小松ジュニアハンドボールクラブ（石川）③かやげハンドボールクラブ（北海道）④愛媛ジュニアーズ（愛媛）

▼Ｅブロック
Blue Sakuya Jr. 13（3－3、3－6、7－3）12 呉ジュニアHC
豊福小学校 19（5－6、5－3、9－5）14 府中ＨＣ
府中ＨＣ 22（5－4、5－1、12－3）8 呉ジュニアHC
豊福小学校 15（5－4、6－1、4－4）9 Blue Sakuya Jr.
【順位】①豊福小学校（熊本）②Blue Sakuya Jr.（鹿児島）③府中ハンドボールクラブ（東京）④呉ジュニアHC（広島）

▼Ｆブロック
窪スポーツ少年団 20（8－0、7－3、5－3）6 大宮南小
北陸電力ジュニア 23（7－3、11－4、5－4）11 三郷ＨＣ
三郷ＨＣ 22（8－2、5－3、9－5）10 大宮南小
北陸電力ジュニア 24（9－3、8－5、7－5）13 窪スポーツ少年団
【順位】①北陸電力ジュニアブルーロケッツ（福井）②窪スポーツ少年団ハンドボール部（富山）③三郷ハンドボールクラブ（埼玉）④大宮南小ハンドボール部（栃木）

▼Ｇブロック
笹川ＨＣ 15（3－7、4－5、8－2）14 秋田わかすぎ
山梨市スポーツ少年団 20（3－3、8－4、9－6）13 キタイスポーツ
キタイスポーツ 25（8－5、9－4、8－8）17 秋田わかすぎクラブ
山梨市スポーツ少年団 23（9－5、6－4、8－2）11 笹川ＨＣ
【順位】①山梨市ハンドボールスポーツ少年団（山梨）②笹川ハンドボールクラブ（三重）③キタイスポーツクラブ（大阪）④秋田わかすぎクラブ（秋田）

▼Ｈブロック
野辺地リトルガッツ 22（4－6、9－5、9－6）17 岩出ハンドボール教室
かすやブルーガッツ 16（4－4、5－4、7－5）13 大住小学校HC
大住小学校HC 50（15－3、21－4、14－3）10 岩出ハンドボール教室
かすやブルーガッツ 30（15－2、3－10、12－2）14 野辺地リトルガッツ
【順位】①かすやブルーガッツ（福岡）②野辺地リトルガッツ（青森）③大住小学校ハンドボールクラブ（開催地）④岩出ハンドボール教室（和歌山）

▼Ｉブロック
明石ジュニア 23（10－4、8－5、5－7）16 真弓クラブ
下郡スポーツ少年団 16（6－5、6－3、4－4）12 総社クラブジュニア
総社クラブジュニア 26（8－2、8－6、10－0）8 真弓クラブ
下郡スポーツ少年団 21（8－6、7－6、6－8）20 明石ジュニア
【順位】①下郡ハンドボールスポーツ少年団（大分）②明石ジュニア（兵庫）③総社クラブジュニア（岡山）④真弓クラブ（奈良）

▼Ｊブロック
東海ＨＳ 15（4－3、4－5、7－4）12 生田HCボンバーズ
綾川ジュニアHC 24（7－1、8－5、9－3）9 Jr.レイカーズ
生田HCボンバーズ 33（13－2、7－5、13－1）8 Jr.レイカーズ
東海ＨＳ 15（6－1、3－2、6－3）6 綾川ジュニアHC
【順位】①東海ハンドボールスクール（愛知）②綾川ジュニアハンドボールクラブ（香川）③生田HCボンバーズ（神奈川）④Jr.レイカーズ（滋賀）

▼決勝トーナメント１回戦
ＨＣ市川 18（7－2、6－5、5－4）11 岩国レインボーキッズ
下郡スポーツ少年団 15（3－2、5－6、7－4）12 かすやブルーガッツ

▼準々決勝
神森小学校HC 15（3－7、6－3、6－3）13 ＨＣ市川
桃園ＨＣ 25（10－5、9－2、6－7）14 豊福小学校
北陸電力ジュニア 26（8－4、10－5、8－3）12 山梨市スポーツ少年団
東海ＨＳ 16（5－3、6－6、5－5）14 下郡スポーツ少年団

▼準決勝
桃園ＨＣ 21（9－7、5－6、7－6）19 神森小学校HC
北陸電力ジュニア 20（5－2、3－4、5－7、4－0、3－0）13 東海ＨＳ

▼３位決定戦
神森小学校HC 18（7－5、7－3、4－4）12 東海ＨＳ

▼決　勝
北陸電力ジュニア 20（10－4、3－9、7－4）17 桃園ＨＣ

【女　子】

▼ａブロック
三郷ＨＣ 14（2－3、6－2、6－1）6 真弓クラブ
霧島ジュニアHC 15（2－1、4－1、9－0）2 愛媛ジュニアーズ
真弓クラブ 9（2－5、3－0、4－3）8 愛媛ジュニアーズ
霧島ジュニアHC 17（5－5、4－3、8－3）11 三郷ＨＣ
【順位】①霧島ジュニアハンドボールクラブ（鹿児島）②三郷ハンドボールクラブ（埼玉）③真弓クラブ（奈良）④愛媛ジュニアーズ（愛媛）

▼ｂブロック
ＨＣ宇土 16（2－2、9－3、5－1）6 笹川ＨＣ
ＨＣ宇土 17（10－0、3－4、4－2）6 野木JHCルーキーズ
笹川ＨＣ 17（6－1、5－1、6－1）3 野木JHCルーキーズ
【順位】①HC宇土（熊本）②笹川ハンドボールクラブ（三重）③野木JHCルーキーズ（栃木）

▼ｃブロック
成田デルフィン 29（9－1、8－1、12－1）3 古川ＧＥ
群馬ジュニアHC 14（4－2、4－3、6－4）9 高山ミニHC
高山ミニハンドボールクラブ 40（11－1、7－3、22－1）5 古川ＧＥ
群馬ジュニアHC 16（5－7、4－6、7－2）15 成田デルフィン
【順位】①群馬ジュニアハンドボールクラブ（群馬）②成田デルフィン（千葉）③高山ミニハンドボールクラブ（岐阜）④古川GE（宮城）

▼ｄブロック
小松ジュニアHC 18（8－0、4－3、6－2）5 野辺地リトルガッツ
倉敷ジュニアHC 12（5－4、3－3、4－2）9 山梨市スポーツ少年団
山梨市スポーツ少年団 16（4－0、6－1、6－3）4 野辺地リトルガッツ
小松ジュニアHC 19（5－2、9－4、5－3）9 倉敷ジュニアHC
【順位】①小松ジュニアハンドボールクラブ（石川）②倉敷ジュニアハンドボールクラブ（岡山）③山梨市ハンドボールスポーツ少年団（山梨）④野辺地リトルガッツ（青森）

▼ｅブロック
草内小学校HC 24（9－2、10－2、5－4）8 宮崎スポーツ少年団
HC春吉Jr. 22（12－1、4－1、6－1）3 Jr.レイカーズ
宮崎スポーツ少年団 21（10－3、4－0、7－3）6 Jr.レイカーズ
草内小学校HC 16（6－2、4－3、6－2）7 HC春吉Jr.
【順位】①草内小学校ハンドボールクラブ（京都）②HC春吉Jr.（福岡）③宮崎ハンドボールスポーツ少年団（宮崎）④Jr.レイカーズ（滋賀）

▼ｆブロック
比美乃江HC 25（9－0、11－1、5－6）7 高知ＪＨＣ
浦城小学校HC 29（10－0、11－1、8－3）4 横浜ＨＣ
高知ＪＨＣ 11（6－4、1－2、4－3）9 横浜ＨＣ
浦城小学校HC 13（2－3、6－2、5－3）8 比美乃江HC
【順位】①浦城小学校ハンドボールクラブ（沖縄）②比美乃江ハンドボールクラブ（富山）③高知JHC（高知）④横浜ハンドボールクラブ（神奈川）

▼ｇブロック
東久留米HC 21（8－1、6－4、7－1）6 貝塚バーディーズ
三佐スポーツ少年団 26（10－3、8－4、8－6）13 潮ＨＣ
潮ＨＣ 21（8－4、7－6、6－5）15 貝塚バーディーズ
東久留米HC 15（4－2、5－0、6－3）5 三佐スポーツ少年団
【順位】①東久留米ハンドボール（東京）②三佐ハンドボールクラブスポーツ少年団（大分）③潮クラブハンドボールクラブ（北海道）④貝塚バーディーズ（大阪）

▼ｈブロック
安芸高田HC 20（8－2、3－5、9－1）8 川西コジマーズ
北陸電力ジュニア 16（5－3、3－6、5－4、0－0、3－2）15 水海道HC
川西コジマーズ 13（4－4、4－5、5－3）12 水海道HC
安芸高田HC 16（6－2、6－8、4－5）15 北陸電力ジュニア
【順位】①安芸高田ハンドボールクラブ（広島）②北陸電力ジュニアブルーロケッツ（福井）③川西コジマーズ（兵庫）④スポーツ少年団水海道ハンドボールクラブ（茨城）

▼ｉブロック
綾川ジュニアHC 13（6－2、3－2、4－1）5 和歌山ハンドボール教室

春日HC 37（12－2、9－0、16－0）2 和歌山ハンドボール教室
春日HC 26（8－0、8－2、10－2）4 綾川ジュニアHC
【順位】①春日ハンドボールクラブ（長崎）②綾川ジュニアハンドボールクラブ（香川）③和歌山ハンドボール教室（和歌山）

▼ｊブロック
東海HS 24（7－2、9－0、8－3）5 境港マリンバード
新小学校HC 17（2－4、8－2、7－2）8 下松ジュニアHC
下松ジュニアHC 12（5－1、4－5、3－4）10 境港マリンバード
新小学校HC 20（3－2、10－2、7－7）11 東海HS
【順位】①新小学校ハンドボールクラブ（開催地）②東海ハンドボールスクール（愛知）③下松ジュニアハンドボールクラブ（山口）④境港マリンバード（鳥取）

▼１回戦
HC宇土 15（6－1、3－3、6－2）6 群馬ジュニアHC
安芸高田HC 16（6－3、3－1、7－5）9 春日HC

▼準々決勝
HC宇土 14（5－2、2－3、7－3）8 霧島ジュニアHC
小松ジュニアHC 17（6－3、4－4、7－2）9 草内小学校HC
浦城小学校HC 15（5－3、4－2、6－3）8 東久留米HC
新小学校HC 21（10－1、5－3、6－5）9 安芸高田HC

▼準決勝
小松ジュニアHC 18（6－5、8－4、4－4）13 HC宇土
浦城小学校HC 14（4－3、4－2、6－4）9 新小学校HC

▼３位決定戦
新小学校HC 15（4－6、6－3、5－1）10 HC宇土

▼決　勝
浦城小学校HC 22（4－2、11－5、7－7）14 小松ジュニアHC

スコアールーム③

第43回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会

開催期日：2016年8月17日(水)～8月18日(木)
会　　場：石川県・いしかわ総合スポーツセンター

▼１回戦
米子高専 33（13－8、20－9）17 秋田高専
函館高専 31（17－15、14－9）24 熊本高専八代
石川高専 27（13－8、14－11）19 北九州高専
鈴鹿高専 25（12－13、13－11）24 明石高専
大阪府大高専 33（14－13、19－13）26 東京高専
高知高専 34（21－7、13－18）25 久留米高専
豊田高専 31（14－9、17－11）20 津山高専
金沢高専 24（10－4、14－8）12 一関高専

▼準々決勝
米子高専 20（11－7、9－9）16 函館高専
石川高専 22（10－8、12－13）21 鈴鹿高専
大阪府大高専 30（14－9、16－9）18 高知高専
豊田高専 27（13－9、14－11）20 金沢高専

▼準決勝
石川高専 23（13－9、10－12）21 米子高専
豊田高専 23（11－7、12－10）17 大阪府大高専

▼決　勝
豊田高専 23（11－8、12－10）18 石川高専

スコアールーム④

第21回ジャパンオープンハンドボールトーナメント

開催期日：2016年8月6日(土)～8月9日(火)
会　　場：愛媛県・松山市総合コミュニティセンター体育館ほか

【男　子】
▼１回戦
HC和歌山（和歌山） 31（15－11、16－13）24 福島SGクラブ（福島）
洛北クラブ（京都） 31（12－14、14－12）28 那覇西クラブ（沖縄）
（2－1 延長 3－1）
栃の葉クラブ（栃木） 36（17－13、19－12）25 高知クラブ（高知）
HC岐阜（岐阜） 34（14－11、20－7）18 埼玉クラブ（埼玉）
EHC（愛媛） 31（16－7、15－3）10 チーム楽南（秋田）
北志クラブ（福井） 34（18－9、16－16）25 紀尾井クラブ（東京）
HC岡山（岡山） 36（18－14、18－14）28 桐球玉川ハンドボールクラブ（神奈川）
長崎社中（長崎） 29（12－13、13－12）27 HC彦根（滋賀）
（2－2 延長 2－0）
トヨタ紡織九州レッドインパルス（佐賀） 28（14－11、14－10）21 SFDA山口（山口）
香川クラブ（香川） 41（15－10、26－15）25 かぶら送球会（群馬）
SOCIO OSAKA（大阪） 19（10－2、9－11）13 氷見クラブ（富山）
大同クラブ（愛知） 35（16－10、19－8）18 山形新球会ハンドボールクラブ（山形）
HONDA（三重） 34（14－12、20－10）22 桜門クラブ（東京）
日新製鋼（広島） 29（13－8、16－9）17 新居浜クラブ（愛媛）
HC岩手（岩手） 43（19－14、24－15）29 如月クラブ（長野）
FOG（千葉） 28（14－10、14－12）22 Various鹿児島（鹿児島）

▼２回戦
HC和歌山 27（16－8、11－12）20 洛北クラブ
HC岐阜 33（15－12、18－14）26 栃の葉クラブ
EHC 27（17－9、10－15）24 北志クラブ
HC岡山 25（12－6、13－16）22 長崎社中
香川クラブ 26（11－8、15－14）22 トヨタ紡織九州レッドインパルス
SOCIO OSAKA 21（6－5、15－12）17 大同クラブ
HONDA 37（18－15、19－9）24 日新製鋼
FOG 31（17－10、14－13）23 HC岩手

▼準々決勝
HC和歌山 19（7－7、12－9）16 HC岐阜
EHC 28（13－12、15－10）22 HC岡山
SOCIO OSAKA 18（8－8、10－9）17 香川クラブ
HONDA 27（14－7、13－9）16 FOG

▼準決勝
HC和歌山 19（10－5、9－7）12 EHC
HONDA 31（17－7、14－7）14 SOCIO OSAKA

▼３位決定戦
EHC 24（6－13、18－6）19 SOCIO OSAKA

▼決　勝
HC和歌山 26（16－10、10－9）19 HONDA

【女　子】
▼１回戦
香川銀行T･H（香川） 54（24－4、30－5）9 BRHC（岐阜）
HC岡山（岡山） 28（17－8、11－12）20 埼玉・白小鳩（埼玉）
不来方クラブ（岩手） 31（14－8、17－11）19 ninfa･kagoshima（鹿児島）
大阪ラヴィッツ（大阪） 43（18－3、25－5）8 かながわガビアーノ（神奈川）
那覇西クラブ（沖縄） 26（11－10、15－9）19 FSTW（東京）
EHC（愛媛） 23（11－3、12－10）13 白梅三英芙会（岩手）
プレステージ･インターナショナルアランマーレ（富山） 27（14－6、13－8）14 HC東京VENUS（東京）
HC和歌山（和歌山） 35（16－4、19－11）15 うとスポーツクラブ（熊本）

▼準々決勝
香川銀行T・H 35（17－3、18－4）7 HC岡山
大阪ラヴィッツ 36（16－9、20－13）22 不来方クラブ
那覇西クラブ 29（12－12、17－5）17 EHC
HC和歌山 18（9－6、9－9）15 プレステージ･インターナショナルアランマーレ

▼準決勝
香川銀行T・H 26（9－12、17－10）22 大阪ラヴィッツ
HC和歌山 29（15－14、9－10）27 那覇西クラブ
（1－2 延長 4－1）

▼３位決定戦
大阪ラヴィッツ 37（19－7、18－9）16 那覇西クラブ

▼決　勝
香川銀行T・H 25（15－6、10－7）13 HC和歌山

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」8月入会・継続会員

【宮城】小林宏幸、大河原浩気【埼玉】岡部克則、西山逸成【千葉】黒田俊雄【神奈川】花岡美智子【山梨】栗原富貴子【静岡】海野のぞみ【愛知】加藤ゆき、濱嶋美香、笹野邦雄【三重】加藤　祥【岐阜】中島明美【大阪】久保幸子、白鳥貴子【兵庫】川原崎雅彦、柿木國夫【広島】両徳良樹【福岡】和佐野健吾【佐賀】久保田秀光【熊本】井本光次郎【鹿児島】蔵元恵子

【10月の行事予定】

【会議】……………………………………………………

10月5日(水)　第1回全国理事会

10月15日(土)　常務理事会

【大会】……………………………………………………

10月6日(木)～10日(月)

第71回国民体育大会 …………………（岩手県・花巻市）

10月16日(日)～21日(金)

第20回日韓スポーツ交流（派遣・女子）…………（韓国）

10月26日(水)～31日(月)

日韓スポーツ交流（受入・男子）………（沖縄県（案））

HAND BALL CONTENTS Oct.

次号11月号（No.563）は11月1日発行予定です。

(公財)日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』　第五六二号

平成二十八年九月二十六日印刷
平成二十八年十月一日発行

東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話　代表〇三ー三四八一ー二三六一
振替　〇〇一二〇ー七ー一〇二九三

編集兼発行人　蒲生晴明

定価　年間三三〇〇円